

佐倉市総合計画策定

市民意見募集結果
とりまとめ

平成 22 年 3 月

佐倉市企画政策課

I. 実施概要

1. 実施目的

佐倉市では、平成 20 年度から、平成 23 年度を初年度とする次期総合計画（市の将来像や、それを実現するための市政運営の指針）の策定に着手している。

この新しい計画の策定に際し、市民が市政についてどのように考え、どのようなまちづくりを望んでいるのかについて、市民から提案や意見を募り、計画策定と今後の市政に活かすため「市民意見募集」を実施した。

2. 実施時期

平成 21 年 8 月から 12 月まで

3. 応募資格

市内在住・在勤・在学の方

4. 募集内容

新しい総合計画の計画期間(平成 23 年度からおよそ 10 年間)を念頭においた、佐倉市のまちづくりへの意見。

5. 募集結果

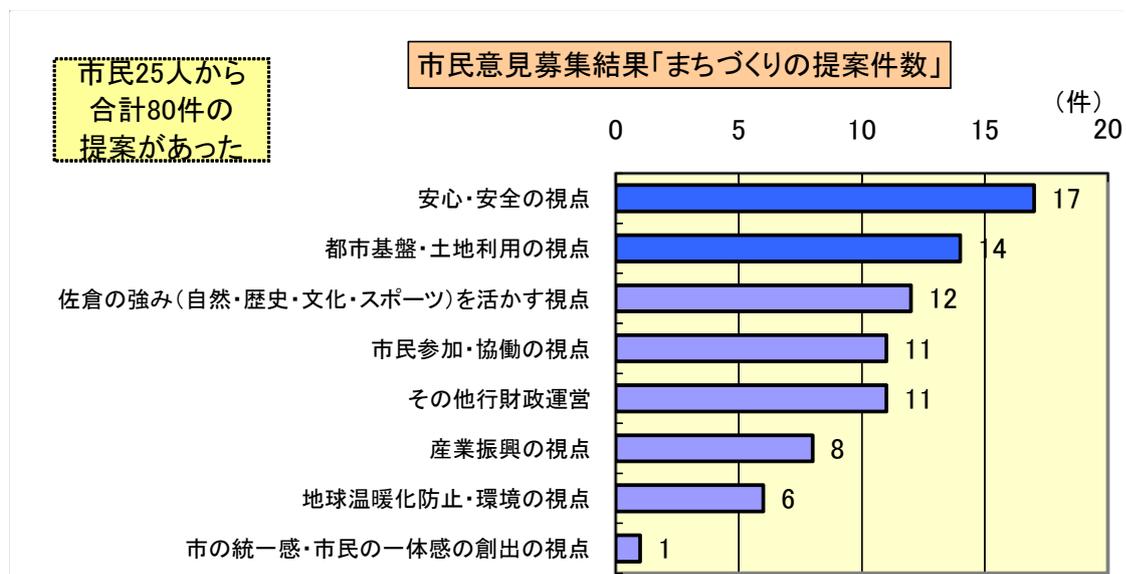
今回は、本募集期間に市民 25 人から応募いただきました。これらの個別意見・内容を取りまとめた結果、全体で 80 件の意見・提案となりました。

II. 新しいまちづくりに向けた提案

1. 全体の概要

市民から提案いただいた内容を、共通の視点で分類・整理した。

その結果、「安心・安全の視点」による提案が17件と最も多く、次いで、「佐倉の強みを活かす視点」による提案が12件、「都市基盤・土地利用の視点」による提案が14件などであった。



2. 個別視点ごとの提案概要

前項1の項目に関する具体的な提案内容は下表のとおり。

項目（視点）ごとに、更に内容を分類し、整理した。

(1)安心・安全の視点【提案数 25】
①高齢者福祉の充実
介護保険制度の充実による福祉の充実
介護予防にもっと力を入れるべき。
老いても、病気があっても、よりよい人生を全うできるまち
老幼施策の連携や地域生活支援への、高齢者対策のシフト
高齢者層、働き盛り層への施策(介護支援、ミニ版老幼の館への支援)
限界集落化する居住区に福祉型複合的地域要素(介護施設、老人住宅、たまり場等)を盛り込み、住民間相互扶助コミュニティを再生化。
②障害者福祉の充実
障がいのある人が働く場を作っていくべき。
障害のある人となない人が教育の場も、働く場も、暮らしの場も分けない施策を進めて、ユニバーサルデザインのまちを作っていく。
ユニバーサルデザインのまち、障がい者が暮らしやすいまち
就学に関して、障がいのある生徒となない生徒を分けないことを原則とすべき。
③子育て支援の充実
待機児童をなくし、子育て支援を手厚く。
ミレニアムセンターに保育所、駅ビルにスーパーを創ったらどうか。
子育て支援策の充実・若年層の定住促進へ
女性、母親が働きやすい環境を整備すべき。
子育て世帯に住宅費の支援をして欲しい。
同居住区の子育て型複合的地域要素(保育所、託児所、遊び場等)を盛り込んだ住民間相互扶助コミュニティへの再生化
大きな病院に隣接した保育園及び託児所
④地域福祉・地域での支え合いの充実
空家の在宅福祉への活用
高齢者との地域サービス協働
地域で子どもたちを預ける制度を作る。
⑤地域医療の充実
医療機関のソフト面の充実と、医療従事者への支援
救急車の有料化
⑥防犯
防犯のため監視カメラの設置を推進すること
⑦その他
平和・人権施策の充実
住環境の充実、医療・介護・生活必需品が身近に買えるまち

(2)佐倉の強み(自然・歴史・文化・スポーツ)を活かす視点【提案数 21】

①歴史・文化資源の活用

麻賀多神社、市立美術館、佐倉の坂道などを観光に利用したらどうか。また、大寺での催しごとを復活すべき。

ロマン漂う歴史のまちの創造

歴史・文化景観の形成

文化資産の活用

西からは電気バスで旧佐倉に向かい、旧佐倉からは籠や人力車で未来都市へと向かうような観光コースがあったらよい。

西から東へと時が移り変わっていくような街を、もっとアピールできたらよい。

城下町文化を打ち出したまちづくりが必要である。

小学生が外国の文化を体験するなど、文化振興

②自然・農業資源の活用

観光(印旛沼のイベントや遊歩道、城跡など歴史資源の活用、食)

風車地域を活用して集客や環境対策施策の拠点とする。

草ぶえの丘と野鳥の森や歴史民俗博物館を活用してアピールする。

佐倉を家庭菜園都市にしたい。

農業を核とした観光まちづくり

③スポーツを活かしたまちづくり

エンジョイスポーツのまちを創り上げる。

④交流促進

姉妹都市の交流があると良い。

オランダとの姉妹都市の醸成と幅広い交流の推進

住民の増加で活気あるまちとすること。観光事業の強化による交流人口の増加を図る。

⑤佐倉市の特色・特性を生かしたまちづくり

国際花火大会の継続的会催と全国的周知

佐倉の個性を出し、周辺市との差別化を図る。

佐倉市の特色に合わせて効率よい施策を行う。

佐倉の名を全国に広めるための施策を実施する。

(3)都市基盤・土地利用の視点【提案数 17】

①町並みの整備

旧市街地、新町などの街路、町並みの整備が遅れている。

②道路・公共交通機関の改善

坂道にエスカレーターを設置したらどうか。

自転車道と歩道の整備で、エコで安全な市を実現する。

交通体系改善(京成電鉄の便数増、京成佐倉駅ハブ化と乗継料金割引によるバス利用の利便性向上、市内タクシー業者の料金低減)

活性化のために、京成駅前の一方通行道路を整備したらどうか。

自転車の普及・利用増加は中高年の健康増進にも役立つため、自転車専用レーンを設置すること。

③駅前開発・賑わいの創出

JR佐倉駅北口の環境を華やかにし、観光案内所を分かりやすくする。

観光に力を入れるなら、駅前の再開発をする必要がある。

④都市政策・都市再生

魅力ある集落居住環境のために、都市再生活動が必要である。

分散型居住区の点在都市としての理解が必要。高齢化による限界集落化、公共輸送問題、日用品購入問題、介護等支援の制度的解決

⑤公共施設等の整備

駅近くに公民館を設置してほしい。

市民共縁墓地の整備

⑥計画的な土地利用

調整区域の建築を認める条例を復活してほしい。

市街化調整区域の保全(開発行為の禁止、業者への指導、緑農地保全)

(4)市民参加・協働の視点【提案数 16】	
①市民参加・協働の場と機会づくり	
行政主導の住民参加型の個性的なまちづくり	
市民参加の計画策定委員会を創設すべき。	
佐倉再生復興について、議会、市民、市が協力して協議の場を設定すべきである。	
市民で構成する地域福祉審議会の設置	
協働の仕組みの設置	
自治基本条例の策定	
期日前投票所をもっと便利の良いところに設置してもらいたい。	
市、観光協会、商工会議所などがボランティアの音頭をとる。	
作業や管理はボランティアや小学生などの力を借りるように働きかける。	
寄付文化の醸成	
②市民・市職員の意識改革と実行	
住民主体の自治体運営を行えるよう、市職員の意識改革	
地域のひとりひとりが自分のできる範囲で参加することが「まちづくり」を実現する。	
市民参加、環境保全は市民の自主性で。行政はその支援を。	
③その他	
市の委託事業(市民公開講座、市民へのアンケート等)における市内事業者・団体の利用	
まちづくりの過程そのものが重要だ。	
地域横断型の共通コミュニティ福祉、公共輸送サービスの制度的確立と担う組織が必要だ。	

(5)産業振興の視点【提案数 14】	
①特産品・食の開発	
食料品の開発と育成(味噌、ピーナッツ、長薯、和菓子等)	
大和芋や米粉、味噌などを使ったレシピを高校生などに提案してもらおう。	
②観光振興	
印旛沼河畔の自然を生かした開発と観光事業の推進	
近隣市との連携により、北総観光圏の形成	
観光立市「佐倉」	
(仮)西部自然公園を核とした観光まちづくり	
③産業としての農業振興	
産業としての農業政策(地産地消支援、販売支援、食育、農業者の政策参加)	
休耕田の利用と就職の促進	
④商業活性化	
にぎわいのある商景観の形成	
⑤雇用と活力の創出	
魅力ある提案で企業や業者、地元の商店などのサポートを取り付けることも行政の手腕。	
若年層、働き盛り層への施策(公共事業と就業機会の創出、地域医療や保育施策の拡充)	
佐倉市の活力をあげていくための指針	
若い世代の雇用を増やす。	
高齢化に対応した地場経済振興を考えるべき。	

(6)その他行財政運営【提案数 12】	
①教育の充実	
	大学やNPOなどの地元のリソースを活用した、グローバルな環境で、自ら学び、考え、コミュニケーションできる力を育成する教育の実現
	教育(教育委員公選制、学力テストの是非、社会人の教育現場への参加)
	図書館で戦争のことを積極的に伝えていくべき。
②財政の健全化・効率運用	
	都市基盤整備、公共施設管理、産業振興は無駄をなくしてソフト対策で。
	補助金はゼロベースで見直していくべき。
③総合計画策定での留意点	
	行政主導の第4次総合計画策定事業に対する市民参加が実現されていない。
	市民が主役と位置づけた総合計画を。将来都市像を「全ての市民が佐倉に暮らしてよかったと思える安全・安心なまち」と要望する。
	国の基準や指針でなく、地方主体で、自分の頭で考えて、市役所職員のマニュアルではない、市民生活に役立つ計画にすべき。
	人口減少社会に合わせて、最低限の施策を行う計画を立てるべき。
④施設整備・公共事業	
	労働者の待遇改善を視野に入れた、公共事業の発注。
	スポーツ施設整備、給食支援
⑤その他	
	コンセプト・キャプフレーズづくり、工程表、情報発信

(7)地球温暖化防止・環境の視点【提案数 6】	
①景観・都市基盤整備での環境重視	
	緑と共存できる街づくり
	市道の脇に花を植えていく。
	街が汚いので、もっときれいにすべき。
	道路を雨水が浸透する仕様にし、下水道への流入水量を削減できれば、調整池の規模の削減や、地下水への還流効果を期待できる。
②農業振興による自然環境の保全	
	緑地・生態系の保全者としての農業後継者の育成、休耕地の活用
③その他	
	飲食店の禁煙と、きちんとした喫煙場所の設置を進めるべき。

(8)市の統一感・市民の一体感の創出の視点【提案数 3】	
	新旧住民のイメージの乖離を取り除き、市全体での城下町佐倉事業を実施したい。
	旧市街地と臼井・ユーカーリ・志津地域の融合
	コミュニティの強化

III. 個別意見の整理

25人の市民からいただいた意見の詳細内容を、「いいところ」、「課題・問題点」、「提案」にわけて整理した。

分野	項目	内容
医療・福祉	課題・問題点	介護保険制度について、市民の十分な理解が足りない。
		老人ホームは高額なもの以外順番待ちの状態であり、経営状態も悪く従業員も低賃金で、外国人労働者も言葉や寮の確保など問題が多い。
		無届で行政の調査も無く設備も不十分な施設もあり、安心して入居できない。
		在宅ケア整備について、在宅医師の不足
		訪問看護師、ヘルパーの不足
		医療・介護制度上の様々な理不尽さ
		佐倉市の人口増加率は、千葉県平均よりも全国平均よりも低く、高齢化も進行している。
		介護保険の適用や、介護施設の不足
		市役所の業務に無駄が多い。高額医療費還付の窓口に行く必要性や、高齢者カードの必要性など
		社会福祉協議会に1億円の補助が出ているが、殆どが人件費である。余剰人員であり、天下り先ではないのか。
		老人だけの限界集落化の可能性
		提案
	民間の墓地購入には多額の費用がかかるため共縁墓地を設置する。墓地が安価で購入できれば介護施設に振り分けることができる。	
	在宅医の不足に対応し、ケアマネ、ヘルパー、訪問介護師の意識・技量を向上させ、在宅ケアチームを整備	
	市民が医療ケアの仕方を理解し、どのように生きたいかを考えることができるような意識改革	
	病院との連携をスムーズにするため、病院医師・看護師と在宅ケアスタッフを橋渡しする地域連携室の整備	
	若年勤労世帯が安心して子育てし定住できるまち	
	ファミリーサポート事業の、安定的な事業運営と支援	
	公立保育園の優秀な保育士確保と質の向上	
	インストラクターの待遇改善	
	子どもの医療費無料化	
	敬老会行事での記念品祝い金の配布見直し	
	給食を実費として高齢者と子ども達が一緒に楽しめる企画	
	地域包括支援センターが地域の特徴をとらえ、対応にばらつきがないように支援・指導を行う。	
	保健士や看護師の増員や地域訪問活動充実、介護相談員の増員	
周囲に障がい者がいて当たり前の、ユニバーサルデザインのまちとするため、就学指導委員会を廃止、地元企業への就労斡旋と支援、庁内就労でも庁舎内に喫茶軽食コーナーを設け運営等を担わせるなどを行う。		
交通の便がよく歴博も近い市営住宅跡地(特に宮小路地区跡地)に保育園や高齢者施設を整備する。		
特定検診・ガン検診受診率増加のため自己負担額の引き下げ		
高齢者福祉課・障害福祉課・児童青少年課が連携し高齢者・障がい者・子どもの虐待防止のサポート体制をつくる。		

分野	項目	内容
医療・福祉	提案	子どもの保育・教育環境整備
		介護老人施設やグループホームに空家・空ビルを利用
		医療機関のサービス充実と医療従事者支援のため、病院に隣接して保育園を建設、保育園優先権を医療関係者に与える、患者のための育児、医療機器導入の補助金、医療従事者や開業個人医と市政について話し合いの場を設ける。
		子育て支援や介護支援などの関連事業で就業の機会をつくる。また、市からも支援を行う。
		子育て・出産に関する地域医療のサポート、子ども医療の無料化、公立保育園・幼稚園・学童保育の拡充
		働き盛り層でも子育てをしている人には若年層と同様の支援が受けられるようにする。また、介護をしている人は介護支援や高齢者同様の支援を受けられるようにする。
		高齢者の健康促進・維持のためにスポーツ施設を整備する。もっとも簡単なことは、街区公園に簡単な運動器具を設置すること。
		佐倉市・酒々井町・四街道の清掃組合で温水プールの共同管理
		ユニバーサルデザインを目指したまちづくり
		障がいのある子どもとない子どもを同じ扱いとするよう支援
		グループホーム、ケアホーム、ひとり暮らし、シェア居住などそれぞれの暮らしで個別に支援する。
		児童託児所設置や託児所への優遇措置
		子育て世帯に住宅費の支援をする。
		ジョギングコースを設ける。
		空き家になっている家の再利用を促進し、在宅福祉の活動拠点とする。例えば桜山医院(旧太田医院)の再利用など。
		地域に元看護師や教員がいるので、若い子どもを預けられる制度をつくり地域力として活用する。
		若者世帯の市外流出と残された高齢者だけの限界集落化への歯止め・解決
		限界集落化する居住区に、福祉型複合的地域要素(介護施設、老人住宅、溜まり場など)を盛り込む。
		子育て型複合的地域要素(保育所、託児所、遊び場)を盛り込む。
		病院に隣接して地域の保育所及び託児所を建てる。
救急車をタクシーと同等の有料にする。		
介護予防に力を入れる。「地域包括支援センター」の広報、認知症の早期発見、転倒予防の体操、口腔ケアなどの講座を増やしたくさんの人に参加してもらう。		
子育て支援をあつくし、待機児童をなくす。		
教育・歴史・文化	いいところ	図書館や市の美術館、古い歴史のある建物で観光的に魅力ある街
		城下町とその文化(佐倉城(日本100名城)、秋祭りの「山王日枝神社神幸祭」への参加や毎年20万人の参加者など
		西の地区(高層マンション、モルレー)から東(田園風景)へと時が移り変わるようなまちの面白み
	課題・問題点	佐倉高校は県立高校だが催しごとの時にゴミ拾いもしていない。市の一部として、各種の催しに市民が喜んで参加できるような学校になるよう、市も働きかけるべき。
		市がひとつにまとまって城下町文化を盛り上げていくことができていない。
		歴史遺物の整備や広報、観光客の受入れ
		幼児・児童・生徒の教育・非行・防犯、災害対策
	提案	観光、小中学校の歴史学習のために、由緒ある坂道に坂の名前の由来を書き添える。
		歴史ある大寺「甚大寺」の堀田家の墓の取扱いを市でも注意すべき。
		駅が近く賑やかになりつつある寺崎地区に公民館などコミュニティー施設を設ける。
		オランダ以外の国とも姉妹都市の交流をする。
		オランダとの姉妹都市関係の強化と、幅広い交流の推進
		地元特有の行事・芸能の見直しや復活
地藏・道祖神の整備・新設		
特長的な施設の建設		

分野	項目	内容
教育・ 歴史・文化	提案	公民館・図書館・コミュニティセンター・美術館・学校の余裕教室・図書室・集会室・多目的室などを市民の自発的学習会のため無料で開放する。
		平和問題について、平和使節団の人数・機会を増やす、修学旅行等で広島を訪れる。
		人権教育について、広報等で定期継続的に取り上げる。
		各自治体にある集会場を利用して、各地区でミニ版老幼の館をつくる。
		城址公園の石垣に説明を加える。
		教育施策として、教育委員の改選時に、少なくとも過半数は公選で任命する(段階的に1人から始めてもよい)。
		文部科学省の指示や指導要綱に振り回されるのではなく、教師が十分に子どもと接する時間と環境を用意し、子どもの疑問に答えていく。社会で働いている大人に授業に参加してもらう。
		城下町としての個性を生かしたまちづくり
		秋祭りを、佐倉市全体のイベントとして実施し、佐倉の歴史・文化の魅力を紹介する。
		図書館で戦争のことを積極的に伝える。具体的には、開戦・終戦・原爆の3事件の日に関する本を読ませる。
		小学生をドイツや外国に留学させるなど文化振興
		高校生など子どもを競わせて、大和芋や米粉、味噌などのレシピを考案する
		佐倉独自の特色ある教育の推進。自ら学び・考え・コミュニケーションする力の育成のために、大学やNPOといった地元資源を使う。計画立案から、教員のトレーニング、教育実施、モニタリング・評価までを小規模で実施してみる。
		佐倉市を観光立国(市)とするため、城址公園に歴史施設を集中させる。
		伝統的建造物群保存地区中心に、町屋の保全、周辺建物の配慮、町並みの連続性保持への配慮を進める。
		沿道の看板等の規制や復元等により、旧街道の面影を再現。
日本での西洋医学発展の中心であった佐倉として、貢献した人などについて残っている資料や建物を利用して、命の尊さを子ども達が学べる記念館をつくる。		
産業	いいところ	東京都心に近く成田空港を控えて交通上も経済的にも便利・優位な位置
	課題・ 問題点	旧市内の寺院は催しごともしないで墓石の増加や、諸納付金にのみ意欲を見せる状態
		指定管理者制度や一般入札は、コストが低いが市内における従業者が減り、結果として雇用の機会も減少する。
		自衛隊の印旛沼周辺の陸上・上空の利用は観光に逆効果
		農家の後継ぎ問題や高齢化による就農者の減少
		農地からの転換ができず、貸せば耕作権が発生してしまうため土地を放棄せざるをえない状況。
	提案	麻賀多神社の大神輿の収納倉をガラス張りにし、美しい姿を観光用に展示する。
		麻賀多神社境内南東の休憩所を談笑の場として祭礼時に他地の麻賀多神社からの参加者を促す。
		市立美術館を私立とし、市民グループの作品展示や佐倉の歴史諸資料の展示、浅井忠など佐倉の名画家の作品展示をする。
		裏町の「塚本総業」の館、「刀剣美術館」を話し合いによって美術館の別館とし、その庭園等も観光用に整備する。
		美術館屋上から市内の眺望を眺められるよう塚本庭園までの空中ケーブルを設置する。
		駅前に観光案内所を設置する。
		国際花火大会(佐倉・国際印旛沼花火大会)を継続的に開催し、キャンペーンを行い全国的に周知させる。
		食料品(例えば味噌、ピーナッツ、長いも、和菓子など)の開発育成
		印旛沼河畔の自然を生かした開発と観光事業の推進
		昼間人口増加のため、自然を生かしての観光振興。たとえばもぎとり体験のできる果樹園のある里山を整備し、体験型観光農園・滞在型農園を整備する。

分野	項目	内容
産業	提案	特産品の育成
		インターネットでPR活動
		ご当地ソングの作成
		マスコットキャラクターによる宣伝
		特産品ブランド化
		自然と調和などを謳ったキャッチフレーズ
		観光と農業振興のため、グリーンツーリズムや産直野菜のネットワーク化の構築、耕作放棄地の市民農園化、農業をはじめの市民への支援策
		観光振興として印旛沼・市民の森・サンセットヒルズ・歴博・城下町界隈の歴史的建造物を結ぶ循環バスルートの整備
		耕作放棄地・遊休地へ地域で取り組むため経済環境部関係各課・市民部自治人権推進課で連携する。
		身近なレジャーと憩いの場整備
		身近な買い物可能なスーパーマーケット等をつくる。
		農業後継者育成のために、地産地消の米価格の安定化(場合によっては補助金)、ボランティアとの交流の機会、各地区に公的な直販所整備、その広報活動などを行う。
		農地放棄や産業廃棄物不法投棄、不法土地所有を防止する法的規制
		タクシーを市の公共交通機関のひとつと位置づけ、妥当な呼び出し料を設定する。
		印旛沼周辺を利用して、チューリップ祭り以外にも、野鳥の森・草ぶえの丘・市民の森などを含めた花のイベントを複数企画する。
		佐倉城跡、本佐倉城跡、篠崎城跡などの出城案内コースを設ける。
		チューリップ祭りのときに、地元の飲食店もPRする。
		農業を継続できない土地は、地域住民で土地利用や維持管理を考える組織をつくり保全する。
		産業として農業に取り組むため、弥富地区を有機農業推進地域として農業推進や支援を行う。
		直売所では佐倉市の旬の野菜や佐倉市で取れた野菜を扱っているという情報をPRし、販売促進する。
		女性農業者を農業政策に参画させる。
		これまでの工場誘致の成果や問題点を明確にする。
		市役所の職員は市内に在住すべき。
		店内禁煙の義務化
		入店前に禁煙店などがわかる看板を市内で統一して設置
		西の地区からはエコバスで旧佐倉へ向かい、旧佐倉からは籠や人力車で都市部へ向かう観光コースの設置
		マラソン金の館ロードを新設(小出道場、金メダル栄光道路、尚子の館、裕子の館、博美の館などで、写真・記事・エッセイ・サイン色紙などを展示)
		佐倉ミシュラン店を設定
		コンセプト・キャッチフレーズづくり
		しなければならないこと(MUST DO)の工程表づくり
		観光PR情報発信ツール確定
		観光施設は既存の施設を改良する。
		景観に段階的にきめ細かい色彩基準による色彩的調和を図る。
		時代の変遷がわかる歴史的まちなみを保全・活用し、店舗や看板等のデザインの規制・誘導をする。
京成やJR駅及び駅前広場周辺は、修景緑化、建築物の誘導、公共施設の修景、案内板等を整備する際は、景観形成に資する計画となるよう留意。		
地場経済振興		
終業化を迎えている高齢者農業の再生		
農業を核とした観光まちづくり(教育・観光・不動産型農業の創業)都民向け		

分野	項目	内容
産業	提案	児童の農業体験
		観光農園
		産物の産直宅配
		古民家風農村住宅の賃貸(週末農業と移住を伴わない農業生活の実現)
		風車地域に大型のショッピングモールを設ける。旧市街地の現在の商店も積極的に参加出店する。
		企業とパートナーシップを組んで、メセナ活動による助力を得る。
		水辺を利用したボート場の設置
		JA や地元デベロッパーと農家がクラインガルデンを事業化し、週末農業や農地付き宅地開発を行政のイニシアチブにより進める。
		市の正規雇用を増やす。
市民参加・協働・行財政	課題・問題点	行政主導の第4次総合計画策定事業に対する市民参加が実現されていない。
		まちづくり懇親会で地域ごとに「問題点とよいところ」を述べたが、4地域で課題の統一化をすることは難しい。
		鹿島川をはさんで二分化の現象
		他市に手本を得る努力が薄い。
	提案	資金源として市の広報誌に広告を掲載し広告収入を得る。
		資金源として施設の命名権売買
		議会・市民・市が佐倉再生復興について話し合う場をつくり、協力し合う体制を設ける。
		期日前投票所を駅近くなど便利な場所へ設置する。
		行政事業で当団体(花しょうぶ)の利用。具体的には市民公開講座、市民アンケート、市の委託事業、統計資料の利用など。
		個性的で活発な行政主導の市民参加型のまちづくり(例: 矢祭町、阿久根町、下条町など)を行う。
		市民をまちづくりに引き込むため、住民自治と市民協働を条例化
		策定委員会・特別委員会への市民参加
		予算の1%を活動原資として予算を組む。
		事業単位で市民の共同組合化
		斬新で具体的・個性的な発想と、具体策を展開させ、定期的に評価する制度
		まちづくりに企業や業者、地元商店のサポートを取り付ける。具体的には新浦安のように、大学教授と大学生を授業の一環としてまちづくりに参加させるなど。
		住民の福祉の増進を図る施策について住民主体で議論を行うため、市民で構成する地域福祉審議会を設置する。
		市民協働を取り入れるため、佐倉市自治の基本的な考えを示す自治基本条例を策定する。
		市役所職員の意識改革として、地方自治、住民自治の主旨、新しい公共の考え方、官・公・私協働の仕組みを理解させる。
		学童保育のスペースを学習時間は高齢者の活動場所として提供
		地域の学校を開放し、花壇の手入れなど高齢者の活躍の場を提供
		公共施設建物の維持管理に市民公募債の発行
		行政執行での透明性の確保と説明責任の追求。具体的には総合評価入札の導入で、労働者賃金に公共事業発注者が関与するよう公契約条例の制定、最低入札価格導入など。
		臨時非常職員の待遇改善、財政面に偏った業務委託の推進と民営化の見直し
		ワークシェアリングを進め、障がいのある人の働く場をつくる。
		補助金をゼロベースで毎年見直すべき。
		市の支出がどの程度、経済に寄与しているのか公表する。
		市民参加ミニプロジェクト設立
		観光に民間の方のセカンドハウスや庭を利用させてもらう。
沿道の建築物や街角に市民の憩いの場となる広場を設ける。		
良好な都市景観形成のため市民と協働で景観まちづくりを推進・監視		

分野	項目	内容
市民参加・協働・行財政	提案	市民に対し景観形成に向けた啓発を行う。シンポジウム、表彰制度など。
		地域コミュニティの連帯の醸成と住民間相互扶助型コミュニティの醸成
		各地域の問題点・よいところを優先順に5つ選出し、初期5年で問題点の解決に取り組み、後期5年でよいところをより伸ばすよう取り組む。
		風車地域と鹿島川を挟んだ両地域の融合地域とする。
		風車地域周辺で可能な限り土地を入手し、季節ごとの花壇をつくり、周りは植樹、内は芝を植え、年間を通して集客をはかり、市民の癒しの場所とする。
		まちづくりに隣人との付き合いなど地域の結束力を高める視点を組み込む。
		市、観光協会、商工会議所などが音頭取りとなりボランティア活動
		市民一人ひとりがボランティア活動や自治会活動に参加し、行政と一緒にまちづくりをしていく仕組みをつくるため、行政と市民(自治会やボランティア)とを取り持つコーディネータの育成。
		環境条件や地域組織およびその活動の積み重ね(地域資源の蓄積力)を向上させる仕組みづくり
		市民が地域の抱える問題を自らの問題と捉え、地域の組織的な対応により解決する力(地域の自治力)を高める仕組みづくり
		地域の環境に関心を持ち、向上していこうとする意欲で、地域に定住していこうとする気持を起こす仕組みづくり
		佐倉市の特性を生かし、豊かな自然と活気ある産業のバランスを考えたまちづくり
		様々な立場の市民の意見を取り入れ、アイデアを出し合う。
		まちづくりの過程そのものがコミュニケーションを生み出すので、市民参加の交流会やイベントを行い、具体的なテーマで意見を出し合う。
		都市
課題・問題点	旧市街地、新町の街路、町並み整備が遅れている。	
	公民館が点在し、アクセスが悪い。	
	限界集落化した点在分散型居住区の再生について、温存・改良・維持するか、廃止し新しく中央集中型にするか。	
	京成佐倉駅、JR佐倉駅の使い勝手が悪く、アクセスに不便である。	
	志津霊園区間道路の問題	
	地域と地域を結ぶ道路整備の遅れ	
	地図の不親切さ、案内標識の少なさ	
	少ないトイレとその汚さ	
	生活道路の整備や既存のサイクリング道路へのアクセス	
	人や自転車交通の安全	
提案	歩行者中心の道路事業を行う。	
	坂道対策として、旧市内に通じる主要道路の坂の一部(JR駅方面は現在の新道歩道の急坂部分、京成駅方面も急な坂の部分)にエスカレーターを設置	
	道路に車道歩道の色別段差を整備する。	
	価値観を押し付けない自由なまちづくりのため、市街化調整区域に建築を認める条例を復活させる。工業エリアの建築も自由にする。	
	自転車道と歩道を整備し、エコで安全な市を実現させる。	
	主要道路を屋根つきにする。	
	安全なまちとして定住を高めるため、監視カメラを設置	
	安全な通行のために自転車専用レーンの設置	
	歩道に彫刻やモニュメントを設置	
	資金源として市道の主要バス停付近の歩道側溝にふたや駐輪場等新設	
東葉高速鉄道のJR佐倉駅への延伸		
都市再生を目的に、魅力ある集落住居環境(介護、高齢者用住宅、住民たまり場、喫茶・飲食スペース、学習を目的とした公園など)で、複合的コミュニティを地域全体で推進する。		

分野	項目	内容
都市	提案	ミレニアムセンターを保育所にし、駅ビルにスーパーをつくる。
		京成佐倉駅前の一方通行道路を整備
		観光を目的とした駅前の再開発
		公共交通網の整備として、小型のマイクロバスを導入し、朝と夕方は地域・駅・学校をつなぎ、昼間は高齢者の通院や買い物に利用できるデマンド型にする。
		頓挫した都市計画道路や新駅構想、大型公園の整備、市街地造成の全面的見直し
		下水道整備は老朽化した下水管の更新や維持管理を中心に行う。
		調整区域に合併浄化槽を普及
		道路の補修、通勤
		医療・交通のための施設整備、ワンコイン・バスなど
		光ケーブルなどインフラの整備・充実
		京成電鉄と交渉し日中の時間帯、佐倉市内の列車本数を10分に1本にする。白井終点を佐倉まで延伸する。
		通勤時間帯の特急の本数とスピードを上げる。
		成田方面の朝の列車を増やす(早朝の飛行機に乗れるように)。
		京成定期系列バスのダイヤ改善と運賃割引またはゾーン料金の導入。京成佐倉駅南口をハブに位置づけて、短・中・長距離バスの運営モデルを協議
		京成佐倉駅ハブ化のため、通勤時間帯の佐倉駅南口の定期バス・スペースの確保。
		長距離バスは採算性が難しいので、四街道行きを京成佐倉からではなく志津発にする。
		現行の定期バスが殆どない区間は、ダイヤモンド型のバス支援サービスで対応。
		駅から印旛沼へ歩きながら自然を楽しんでもらう遊歩道の整備(佐倉駅から印西線の踏み切りを始点として、ふるさと広場まで)
		現行のミニバスサービスを、体の不自由な人のために土日祝日は1時間に1本運行させる。
		ミニバス運行の周知として、バス時刻表を駅のバス停や観光案内所に掲示。
		市街化区域内農地及び市街化調整区域の土地は、土地利用ではなく土地保全に重点を置く。
		開発許可をした区域については責任を持ち業者指導をする。
		CATV296を中核に情報ネットを構築し、独居老人などに地デジ化対策を行い、コンテンツ企業を誘致する。
		地域のバスを細かく走行する。病院、ベイシア、ジョイフル本田など。
		低層建築物と中高層建築物の形態混合へ配慮する。
		大規模な土地利用転換候補地は、新都市拠点としての高質な空間づくりと、周辺環境への配慮を行う。
都市計画道路等の幹線道路は、無秩序な郊外型商業施設の立地をコントロールし、周辺環境と調和した沿道景観を整備。		
景観法に基づく景観計画を策定		
情報の発信と整理が重要なため、駅や公民館などの利用者の多い施設に情報を引き出せる拠点を置く。パソコン(インターネット)を使った画面による情報観覧。また、パソコンが苦手な人用に、紙媒体も用意をする。		
環境・自然	いいところ	自然と歴史に恵まれた資源、印旛沼と印旛沼流域空間
	課題・問題点	野鳥の森出入り口の産業廃棄物の山
		まちに空き缶や空き瓶、ビニール袋などが落ちていて、汚い。
		印旛沼の美化にあたり、下水や浄化槽の整備が周辺地域にできていなければ意味がない。
		不法投棄の山
	提案	JR佐倉駅北口の駅前に、植物や花壇を整備し、環境を華やかにする。
表町の川周辺の整備、環境美化を行う。 コンパクトなまちづくりではなく、緑と共存できるまちづくりをする。		

分野	項目	内容
環境・自然	提案	調整池の規模削減と地下水への還流効果のため、道路を雨水が浸透する仕様に整備。
		里山・田園風景・水辺の保全や補修
		下志津・畔田地先は佐倉市谷津環境保全指針に基づいて市街化調整区域として残すため、保全を進める。
		市道の脇に花を植える。
		作業の管理はボランティアや小学生などの力を借りる。
		無秩序な市街化を抑制し、緑化に配慮・誘導して景観をつくる。
		通路未整備なままの地区に対して、地区計画等により基盤を確保しながら住宅地の生垣の奨励・駐車場の緑化をすすめる。
		工場倉庫群は、立地状況に応じて周辺環境と調和した敷地内の緑化や建築物等の規制・誘導を進める。
		市の外縁部の集落地は農地・緑地の相まった良好な環境のため、保全・改善する。
		田園風景を保全し、周辺環境と調和した施設整備の誘導。
		印旛沼の自然環境を保全し、周辺環境に配慮した水辺環境の保全・復元。
		水路を、水辺を生かした親しみのある空間として活用。
		雑木林と畑地の相まった景観を、公園の整備とあわせ自然環境を保全する。
		地域の市民レベルの温暖化防止活動
		西部自然・新公園を核とした環境まちづくり
		水田や谷津田特有のやすらぎと癒し
		風車地域を環境対策の拠点とし、風力発電や太陽光発電を行い、印旛沼の浄化や農作物の育成研究、照明、売電などに利用する。
環境について市民が安易に産廃業者に土地を売り渡さないよう地下水や土壌汚染について学ぶ機会をつくる。		

IV. 個別意見の整理

受付番号	1
提出提言 部門区分	産業(観光) 都市土木 道路整備(バリアフリー)
提言概要	<p>①麻賀多神社、市立美術館、佐倉の坂道などを観光に利用したらどうか。また、大寺での催しごとを復活すべき。</p> <p>②佐倉再生復興について、議会、市民、市が協力して協議の場を設定すべきである。</p> <p>③坂道にエスカレーターを設置したらどうか。</p>
提 言 内 容	
<p>「こうほう佐倉九・一五 まちづくりへのご意見を」に愚見を一言</p> <p>もう二十年余の昔、市民カレッジで席を共にし、今尚「佐倉を愛し、佐倉を語る」老の仲間達に、こんな愚本を配布したりもしたのですが「まちづくりの提言を」というご要望に筆を取る前に。</p> <p style="padding-left: 40px;">佐倉ってこんな町 昔を今の夢を この愚文の序に代えて</p> <p>大きいことはいいことだなんて 誰が言い出したかは知らないけれど 膨れりゃ中身が空になる 佐倉佐倉昔の佐倉は小さかったけれど 歴史の影を随所に残し 活気に溢れる人の和も愛々傘に満ち溢れ 嬉し懐かしの里だった そんな思いを胸に秘め あそこにここだと連れ立って 昔の影を描き出し 力の癒えた人々に 元気元気と復興再建の道を探り出す</p> <p style="padding-left: 40px;">本文・項目だけを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐倉の生い立ち、地名の由来 ・佐倉歴史年表 ・城下町佐倉の歴史、名所旧跡 ・佐倉城跡 ・水掘 ・石仏大日如来像 ・国立歴博 ・姥ヶ池 ・茶室三径亭 ・堀田正睦、ハリス像 ・本丸跡、天守閣跡、夫婦モッコク ・兵營跡の碑 ・麻賀多神社・その由来、例大祭 ・町並、旧家、寺院、名所旧跡 ・武家屋敷 ・海隣寺 ・市役所 ・おはやし館 ・甚大寺、 ・堀田家墓所 ・県立佐倉高等学校 ・松林寺 ・教安寺 ・旧堀田邸 ・佐倉順天堂 ・宗円寺 ・佐倉坂巡り <p>以上写真添付での案内記録</p> <p>(尚今回投書の本論ともなる「まちづくりの意見」は、日頃老の仲間と「ああだ、こうだ」の話し合いの幾つかを愚文にまとめ愚文の最後に記述としたものですが、そのまま「投書本文」とさせていただきます。)</p>	

佐倉・佐倉復興への道

佐倉市政官民の検討会あれば提案したい愚考

一 麻賀多神社

北総十八麻賀多の内公津の御本社に次ぐ第二の神社として、江戸時代歴代領主の手厚い庇護の中今日に至っているが、現在の宮本神主意向諸行事扱いもあって、市民の護本尊として益々崇められてはいるが、より一層市民の祈祷の場相和し、憩い、語り合う場としてもその存在を高めて行って欲しいと思う。その一助として

- ・関東一といわれる大御神輿の収納倉その正面をガラス張りとし、神は御座になっていないとはいえ、その美偉容を見せておいて欲しい。
- ・境内南東の休憩場所に無人の茶菓接待 機を備え、憩い談笑の場としては祭礼時、他地の麻賀多神社からの参加

二 市立美術館

地方から知人、友人が訪ねて来、美術館云々の話になった時、私は町内の市立美術館ではなく、川村美術館に案内することが多いのですが、一寸寂しい気もしています。私はこうも考えているんです。

- ・展示内容その他から考え、この歳「市立」ではなく、「私立」とし、市民グループの作品展示。歴史資料館に代わる佐倉の歴史諸資料の展示、浅井忠他佐倉が生んだ名画家等の展示した方が良いんじゃないか。
- ・裏町の「塚本総業」の館、「刀剣美術館」を話し合いの上、美術館の別館とし、その庭園等も観賞の対象と出来ないだろうか又両館の結び付きのため、美術館屋上から市内の眺望も含め。塚本庭園までの空中ケーブルの設置も面白いなと思もする。

三 佐倉の坂道

佐倉を訪れる人達は、意外に佐倉を囲む坂道に関心と興味を持つようであるが、ここに居住する住民にとっては、苦痛の種ともなる坂道でしょう。

市内の道路全般の改良と合わせて、数多くの坂道にこんな対策は出来ないだろうか。

- ・旧市内に通ずる主要道路の坂の一部にでも「動く歩道」の設置。JR 駅方面からは現在の新道歩道の急坂部分に、京成駅方面からも、急坂となる部分に。
- ・又観光者、小学校、中学校等の生徒の「歴史学習」のためとも合わせ、由緒ある坂道にはその名の掲示に加え、「その名の由来」も書き添えることも必要と思う。
- ・漆坂 ・おっぺし坂 ・暗闇坂 ・ひよどり坂
- ・薬師坂 ・猿ヶ坂 ・薬漕坂 ・他色々

四 市とは無関係な県立高校

堀田正倫公により創立の佐倉中学校が今や県内でも有数の進学校。もはや佐倉とは無縁の存在。「ああ、嫌だ嫌だ」。もう十年余の昔になるが、「鹿山会」と言って、その昔の中学からの卒業生の集まりに出席した際のこと。

校門入口に通ずる道路。左右の藪と随所に見られたゴミ。教頭に「せめてこの日ぐらいは、先輩の年に一度の集会なんだから、学生に付近の清掃ぐらいは」と、苦情を付けたところ、なんとその返事が「うちは進学校なんで、生徒にそんな奉仕めいたことはさせられません」とニベもない返事。「ああ、こんな学校なら廃校にし、その昔の姿だけを残したらいい」と思った後は同窓会に出席したことがない。

市民に愛され、市の中に溶け込み、各種催しに市民が喜んで参席も出来るような学校になって欲しいものだ。市当局もハッパを掛けては。

五 寺院の現状

旧市内要所要所に位置する寺院は十数寺に及ぶだろうが、戦前までは各寺院夫々に催しごとも行われていたが、今は墓石の増加、諸納付金にのみ意欲を見せている状態。せめて昔からの大寺での催しごとは復活して欲しい。又歴史を語る大寺「甚大寺」に守られる堀田家の墓地の扱いには、市当局もより一層心を砕いて欲しいと思もする。

六 各商店街、商店の結束

今の私には「これは無理な注文」と、呼び掛ける気にもなれないが、商店主自らが「諦め」の状態では「何をか言わんや」でもある。

またバラバラの観光施設、案内所で市のPR、何が出来るのかと語るも嫌な気持。ああだ、こうだの思いの一部を書きなぐりはしたが、ご笑覧のほどを

以上私なりに書き並べた検討課題、その方向についても、諸兄弟におかれては色々ご意見のあることと思いますが、要は「歴史を今に語る姿形は総て人の和と知恵、要望によって生み出されたもの」との意識、認識に立って、この佐倉再生復興への道も歩まねばならないと思います。

この愚老最後の提案も「政官民」、即ち政となる「市議会での方針」、官となる「行政当局の実施」、民となる「市民の、要望」が一体となったの実施、そのための「話し合いの場」様々な角度方向から持つことが、「佐倉再生復興」の具ではないか、ということ。

「何をクダクダこのポンコツ老が」と、この愚著もポイ捨てではなく一考頂ければ幸いです。要は、旧佐倉部分だけでも「歴史ある町」として、再生復活させたいという願望です。

「馬鹿は死ななきゃ直らない」そろそろ「認知」と認識はしても、「死ぬまでは」と、こんな「愚文の遊び」。

佐倉にも「こんな具にもつかない駄文を投稿する奴がいるんだ」と、お笑いのことかと思いますが。

確かに佐倉生まれ、佐倉を愛し、佐倉にその死までと思いながらも、何ひとつ町のお役にたつようなことはしていないこの愚老がこんな投稿なんて。お許し下さい。

受付番号	2
提出提言 部門区分	都市(まちなみ景観・駅前整備) 産業(観光推興) 文化(文化振興) 国際交流
提言概要	①旧市街地、新町などの街路、町並みの整備が遅れている。 ②J R佐倉駅北口の環境を華やかにしてもらいたい。観光案内所を分かりやすくしてもらいたい。 ③駅近くに公民館を設置してもらいたい。 ④期日前投票所をもっと便利の良いところに設置してもらいたい。 ⑤姉妹都市の交流があると良い。
提 言 内 容	
<p>9月15日の広報 まちづくりへのご意見を の記事を見ました。</p> <p>今年3月に佐倉市へ転居してきました。まだ、半年ですが、これから長く住むであろう佐倉市への要望とかを、述べさせていただきたいと思います。</p> <p>1. 国立歴史民俗博物館や城址公園、武家屋敷、佐倉高校にある施設など、とても歴史のある街だと思います。そのわりに、旧市街地、新町などの街路・町並みの整備が遅れていると思いました。道路の狭さはあるのですが、もう少し洗練された町並みにして欲しいです。道路に車道と歩道色別段差など等。東京の街を歩くと、その点が素晴らしいと思います。図書館や市の美術館、古い歴史のある建物で観光的に魅力ある街だと思いますので。</p> <p>2. J R佐倉駅北口について とても広々とした駅前、植物や花壇を整備して、環境を華やかにして欲しいです。彫塑があつてすばらしいですが、何かさびれた街の感じがします。観光パンフによると、レンタル自転車があるとのことですが、わかりません。駅前に観光案内所はないのでしょうか。表町の川周辺の整備、環境美化もあつたほうがよいと思います。</p> <p>3. 公民館について 数が少なく点在していて、アクセスが悪いので、もっと、多くの人が行きやすいJ R佐倉駅近くや、にぎやかになりつつある寺崎地区などにも、公共のコミュニティーの公民館の施設を作ってください。 最近、佐倉駅からベイシアを通り、王子台へのバス運行が始まったのは、良かったと思います。 期日前投票所の場所について。 今回、期日前投票で、車で市役所まで行きましたが、もっと、行き易い駅近くなど、便利な場所へ設置して欲しい。 あくまで、住民本位で、やっていただきたいと思います。</p> <p>以上、まだ住んで間もないですが、思ったまを意見として、メールしました。最近テレビの放送で、2回、観光地としてとりあげられていましたので、それだけ、佐倉は知名度がありますね。 国際交流について。 歴史的な背景でオランダとの交流があるようですが、他の国とも、姉妹都市の交流があるといいなと思いました。</p>	

受付番号	3
提出提言 部門区分	福祉(介護保険制度) 環境(市営霊園整備)
提言概要	①介護保険制度の充実による福祉の充実 ②市民共縁墓地の整備
提 言 内 容	
<p>そもそも佐倉市に住むきっかけは、十八歳の時田舎から上京して、多少東京の生活にも慣れ、心の余裕がチョッピリ涌いた五月晴れの日曜日に、成田山への参拝だった。</p> <p>京成電車に乗り津田沼駅を過ぎると、私の生れ故郷に似たのどかな田園風景がちらほら見られるようになり懐かしかった。電車の窓越しには小枝の青葉がゆらゆらと靡き、爽やかな微風が車内にまで漂い、久し振りに自然の新鮮な空気を満喫した。いずれはこの様な場所に住みたいと思いつつ、東京の三畳のボロアパートに戻った。それから十年後に結婚し、縁があって佐倉市に移住して四十数年になる。</p> <p>私の関心事は福祉である。福祉といっても幅が広いので、私が常日頃思っている二・三の事柄について考えを述べてみたい。</p> <p>まず介護についてですが、介護保険制度は二〇〇〇年にスタートして丁度十年を迎えた。私の定年後間もなくしてスタートしたこの制度は、かなり深い関心がある。私の両親の介護は私が次男で上京した後、長男が実家を継ぎ兄嫁さんに両親の面倒を見て貰ったので、私は何もしなかった。</p> <p>これからは旧来の家族制度も崩壊し、生活は夫婦単位となるので、老後の介護は老夫婦相互の老老介護をえて、最後は介護保険の利用になるものと思われる。今の介護保険制度は問題点もあるが大変良い制度である。しかし私もそうであるが、介護保険について十分な理解が足りないのではないかと思われる。その時になって初めて相談窓口に駆け込む状態である。どうも人様の手を煩わすのは美徳の精神から外れるようで、施設に入るのも両親等を入れるのも躊躇してしまうのではないだろうか。最近女優の清水由貴子さんがお母さんの看病に疲れ、良い仕事が出来ないと自殺を図ったというニュースを見て、本当に残念に思う。この様に介護に専念しようと現職を余儀なく去る人が年に十五万人程いると聞くが、これからも増加するらしく本当に残念で堪らない。私達は一人一人が健康に十分注意し、やむを得ない場合は介護制度を利用しよう。</p> <p>高額な老人ホームは新聞紙上等で宣伝され募集しているが、我々が望む庶民的な老人ホームは順番を待たなければ入所できないと聞いている。殆どの施設は民間経営で、経営状態は良くなく、従業員は重労働の割りに賃金が安く辞める人が多い。その穴埋めに安い労働力の外国人を受け入れようとしているが、言葉の違いや生活する寮の確保等の問題もある。</p> <p>経営悪化及び従業員の低賃金を改善すべく、今年(二〇〇九年)から三%の値上げとなるが、それでも施設経営者は嘆いている。</p> <p>介護保険制度は改良に改良を重ねているがまだまだ不十分である。</p> <p>二〇〇九年三月には群馬県渋川市の高齢者施設「静養ホームたまゆら」で火災が発生し、死者が出たニュースを聞いて驚くばかりである。この施設は、無届で行政の調査もなく、設備も不十分でこんな老人ホームがあって良いものだろうか。私は当然ながら施設等の設立基準に則り運営されているものと思っていたが、全国にはこの様な無届の施設が七〇〇ヶ所もあるとの事で、こんな状態では安心して施設に入る事も出来ない。</p>	

そこで市営の老人ホームの設立は何故不可能なのか、何時も疑問に思っている。二〇〇八年の市の調査によると「介護が必要となった場合は、在宅で介護サービスを受けて暮らしたい」という人が六〇%以上となっていた。故に市の行政の手で、地域密着型の介護施設を作れないものかと常々思っている一人である。立派な民間施設への入居は、お金も掛かる不安と抵抗感もあるが、市営と聞いただけで安心と親近感も抱くと思う。

まずはデイサービスやショートステイが出来る程度の小規模施設で、必要最低限の正規職員の外はボランティアを有効に活用した運営が出来ないものか、一度検討する余地が有ると思う。これからの高齢者社会では介護認定者が増え、介護保険料もアップせざるをえないので、市民相互が助け合い二十一世紀を乗り切りたいものである。家族の介護のために働き盛りの人達が、退職・転職・休職等と余儀なくされるのは真に残念で、本人や家族のみならず社会全体の大きな損失となる。

人間は誰しも最後には病院か介護の世話になり、その後は、通念で葬式とお墓の問題となる。最近では死後にお通夜や告別式を行わずに遺体を火葬するだけの「直葬式」が広がっている。以前は身寄りのない人などを対象にした福祉的なサービスだったが、今や一般化してきた。葬儀は、退職後の生活が長くなって、現役時代の仕事を通じた人付き合いが減ったり、子供も少なく或いは子供がいない世帯や非婚世帯が増えたりと、社会家族形態の変化に合わせて、簡素な葬儀にならざるを得なくなったと思われる。このような社会環境では当然ながら葬儀の参列者も少なくなるし、故人に子供がなければ縁の薄い人達が見送る事にもなり、直葬が増えると思う。又葬儀費用の問題もあろう。

最後にお墓の問題であるが、近年は様変わりしお墓のマンションまで出来た。又散骨もあり墓不用論者も出て来た。

人は誰でも住み慣れた場所が都であり、私の都は終の棲家でもある佐倉となる。そこで佐倉市に立派な「共縁墓地」が有ればと思う。従来の寂しいイメージを払拭し、公園などを兼ねた華やかな場所にすれば、また友達にも逢える。

民間の墓地を求めるには高額な費用が掛るので、その分を介護施設に振り向けて介護の充実を計りたい。

市民の介護や市民病院、市民共縁墓地があり、住み心地が良く安心な佐倉市は、きっと社会福祉の充実した代表的なモデル都市となる。

受付番号	4
提出提言 部門区分	産業(観光)
提言概要	①オランダとの姉妹都市の醸成と幅広い交流の推進 ②国際花火大会の継続的会催と全国的周知 ③食料品の開発と育成(味噌、ピーナッツ、長薯、和菓子等々) ④印旛沼河畔の自然を生かした開発と観光事業の推進
提 言 内 容	
<p>「まちづくり」の将来 ーほんの一例ー</p> <p>我が「佐倉」の将来は、「歴史・自然・文化のまち」だけでは成り立ちません。もっと外部の新鮮な空気を取り入れて、活気のある開発に知恵をしばることが肝要だと思うのです。</p> <p>その一例は、</p> <p>(1)オランダ国との姉妹都市の醸成と幅広い交流の推進 (2)いわゆる国際花火大会の継続的開催と全国的周知(キャンペーン) (3)食料品(例えば、味噌、ピーナッツ、長薯、和菓子等々)の開発と育成 (4)印旛沼河畔の自然を生かした開発と観光事業の推進 等など・・・。</p> <p>これからの時代は、歴史物だけに力を置いた展開だけでは、ジリ貧で先行きの発展は望めません。</p> <p>二十一世紀の今日の時代には、思い切りが必要だと思うのです。</p> <p>新事業等の開発に必要な予算措置については、われわれ市民もその一翼を荷負うことにやぶさかではないと思うのです。「佐倉」の発展のためですから・・・。</p> <p>第四次総合計画には、市民の声を多く取り入れ、じっくり策定いただくよう希望してやみません。</p> <p style="text-align: center;">「まちづくり」 市民が描く 設計図。</p>	

受付番号	5
提出提言 部門区分	都市(開発規制の緩和・道路整備) 産業(観光振興) 文化(文化振興) 国際交流
提言概要	①調整区域の建築を認める条例を復活して欲しい ②自転車道と歩道の整備でエコで安全な市を実現 ③緑と共存できる街づくり
提 言 内 容	
<p>市街化調整区域の建築を認める条例を復活してほしい。 価値観を押し付けない自由なまちづくりがいい。 当然物作りの出来る工業エリアも自由にすべき。 自転車道と歩道の整備で、エコで安全な市を実現して欲しい。 主要道は屋根付きがいい。 コンパクトな街づくりはごめんです。 緑と共存できる街づくりをしたい。</p>	

受付番号	6
提出提言 部門区分	医療(介護保険・在宅がん緩和ケア)
提言概要	<p>①医療機関・介護事務所の自己努力のみでは医療・介護の破綻は免れない。予防医療の啓発活動のみでは今後の超高齢化社会に対応できない。佐倉が、老いても、病気があってもよりよい人生を全うできるまちであることを要望・提案いたします。</p> <p>②行政の事業の中で、市民公開講座、市民へのアンケート、市の委託事業、統計資料の利用などで、当団体の利用を考えてもらいたい。</p>
提 言 内 容	
<p>1. 設立趣意</p> <p>(1)設立までの経緯</p> <p>現在、厚生労働省は医療費削減のため、在宅医療推進に向けて政策誘導しています。現在、日本の医療は財政上も医療資源上も崩壊の道を辿っており、これを取り切るには在宅医療の地域システムを構築する必要に迫られています。</p> <p>この30～40年間、病院中心に医療が発展したため、病院に患者が集中し、救急患者の受け入れができない、病院医師が疲弊する。といった問題が生じています。また、入院期間の短縮化政策のためギリギリまで自宅で過ごす患者が増加しており、その中には早期から在宅における医療・ケアが必要な患者が少なからず存在しているように感じます。</p> <p>これを解決するには、診療所医師の無理のない範囲で在宅医療システムを構築し、より積極的に病診連携を図ることが必要ですが、在宅医療を行っている診療所医師は非常に少なく、また、医師、看護師をはじめとする病院職員もどのように対処すべきか手探りの状態で、現在、解決に向けてやらなければならないことが分かっているにも関わらず、その糸口が見えない状態です。また、この問題は医療・介護職だけ頑張ればできる問題ではなく、市民も医療の利用の仕方を知り、自身がどう生きるべきであるかを考えることも必要不可欠です。</p> <p>我々は問題の解決の糸口として、まずは、市民が医療の仕方を知り、どう生きるかを考え、それを医師に伝えていく努力ができるように支援すること、病院職員にどのように対処すれば良いかを知ってもらう、という方法を考えています。そのために、①市民をはじめ、医療、介護者への啓発活動、②市民、医療、介護者からの相談を受ける、という活動をするシステムをつくることを考え、組織作りをしました。</p> <p>組織名は、さくら在宅医療ネットワーク「花しょうぶ」としました。「さくら」としてはありますが、佐倉市を中心とした生活圏での活動を考えています。「在宅医療」としたのは「在宅ケア」にすると、地域包括支援センター等との役割が混同される可能性があること、「在宅」での「医療」が決定的に不足しているため。「ネットワーク」としたのは、医療、介護・市民の繋がりを大切にしていきたいため、それに覚えやすいように愛称として佐倉市の市の花である花菖蒲を優しい感じになるように一部平仮名にして「花しょうぶ」とつけました。</p>	

(2) 組織の理念

- ①本人の自立を基礎とした家庭支援
- ②生活視点で医療を考える。
- ③利益誘導はしない。

(3) 目標

- ①患者・家族・市民・病院・在宅スタッフからの相談を受ける。
- ②患者・家族・市民・病院・在宅スタッフへの教育・啓発
- ③市民を含めた地域医療システムを構築していく。
- ④在宅ガン緩和ケアの整備を第一の仕事とする。

(4) 今後のプラン

- ①医療・介護者向けの研修会を年3回くらい行う。
- ②平成22年度には市民へアナウンスしていき、市民公開講座を開催する。
- ③在宅を行う医師を増やす活動をする。
- ④公益性を担保できる会作り。
- ⑤メーリングリストの開設。

II 日頃の活動上の問題点や課題

(1)平成20年3月より、数名の世話人で立ち上げ、現在10名の世話人で運営しております。しかしながら、世話人はそれぞれ仕事を持っており、現在ボランティアで活動しております。そのため、このシステムを市民に周知してもらうためのアナウンスが難しいこと、活動が不安定になっていることを危惧しております。

- 具体的には、①組織としての公益性の担保 ②活動の経済的基盤の確保
- ③組織運営のためのマンパワーの確保

これらについては、NPO法人化による問題の解決を検討しておりますが、特に①については、市と協働を図ることができれば、より公益性が高まること、市民への啓発活動を行いやすくなることが期待されます。

(2) がん対策基本法・がん診療所拠点病院構想の問題点

がん対策基本法第16条(平成19年4月1日施行)に「・・・居宅においてがん患者に対し・・・療養生活の質の向上のために必要な施策を講ずるものとする。」とある。

これは、在宅がん緩和ケアの呼び水となると思われたが、がん患者拠点病院構想において、病院を中心に緩和ケアの準備を行い、それを在宅ケアに適用させる流れが進んでいる。がん患者拠点病院構想による、がん緩和ケアへの意識や技術の向上は必要不可欠であるが、病院では在宅における患者・家族の真の姿、思いはみえないため在宅ケアの整備は在宅を中心に行い、その支援を病院に依頼していくべき、と考える。

①在宅ケアの整備についての問題点

- (ア)在宅医が決定的に不足
- (イ)訪問看護師、ヘルパーも不足
- (ウ)医療・介護制度上の様々な理不尽さ

②解決方法の提案

(ア)在宅ケアチームの整備

在宅医不足に関しては、患者の近いところに位置するスタッフ(生活支援者＝ケアマネ、ヘルパー、訪問看護師)から医師への要望を高めることが必要、そのためには、ケアマネ、ヘルパー、訪問看護師の意識・技量の向上が必要

(イ)病院とのスムーズな連携の整備

病院医師・看護師と在宅ケアスタッフを橋渡しするスタッフ(＝地域連携室)が在宅ケアを理解することが必要

(ウ)市民の意識改革

市民が医療・ケアの利用の仕方を理解することが必要。そのためには、市民がどのように生きていかを考えることが大切。

(エ)病院外に在宅医療の相談センターを設置するさくら在宅医療ネットワーク「花しょうぶ」の設立

III 佐倉市の新しいまちづくりに向けた要望・提案

医療機関・介護事務所の自己努力のみでは医療・介護の破綻は免れません。予防医療の啓発活動のみでは今後の超高齢化社会に対応できません。佐倉が、老いても、病気があってもよりよい人生を全うできるまちであることを要望・提案いたします。

IV 市との連携や協働が可能な活動・取り組み

行政の事業の中でこのシステムを利用できるように検討していただければ、と考える次第です。具体的には、

- ①市民の公開講座
- ②市民のアンケート
- ③市の委託事業としての活動
- ④統計資料の利用

受付番号	7
提出提言 部門区分	都市(まちなみ景観・駅前整備) 産業(観光振興) 文化(文化振興) 国際交流
提言概要	①住民の増加で活気あるまちとすること。観光事業の強化による交流人口の増加を図る。 ②防犯のため監視カメラの設置を推進すること。 ③自転車の普及・利用増加は中高年の健康増進にも役立つため、自転車専用レーンを設置すること。 ④佐倉の名を全国に広めるための施策を実施する。
提 言 内 容	
<p style="text-align: center;">さくらおこし</p> <p>まちづくりの根幹は、住民の増加で活気があるまちとにすることです。 佐倉市の人口増加率は、市の資料によりますと千葉県平均はおろか全国平均よりも低い状況です。そして、高齢化が進行しています。</p> <p>一つには、定住を高める、二つには、昼間人口の増加を図ることです。住みよいまち、老人や子供にも安心して住める、また、佐倉から離れたくない、佐倉に住んでみたいという、まちにすることです。</p> <p>あきす、ひったくりのたぐいから重大な犯罪まで年々増加していることを考えると、防犯パトールはかなり効果を発揮していますが、さらに、プライバシー保護の面があるものの、監視カメラの設置を推進する時期に来ていると思います。</p> <p>次に自転車専用レーンの設置を提案します。道路は整備されて来ていますが、少なくとも幹線道路に自動車・自転車・人の区別があれば、それぞれがより安全快適に通行でき、また、自転車の普及・利用増加は中高年の健康増進にも貢献します。</p> <p>昼間人口の増加について、事業所の増加による就業者の増加の他に、やはり東京近郊の緑豊かな自然を活かして観光の振興に力点を置く必要があります。現存する名所旧跡の他、たとえばもぎとり体験のできる果樹園のある里山、体験型観光農園、滞在型農園、特産品の育成等、また、地元独特の行事・芸能の見直し・復活、地蔵・道祖神の整備・新設、歩道に彫刻・モニュメントの設置もまちおこしになるかと思えます。</p> <p>これらの資金の一助として、市道の主なバス停付近の歩道側溝にふたや駐輪場等の施設や市の広報の紙上等に広告の掲載による収入、また、施設の命名権売買による収入を図ることも検討すべきかと考えます。</p> <p>そして、わがまちの良さをアピールすることです。「佐倉」の名を全国へ広めるための、関東に佐倉ありを強く印象づけるためにも、インターネットの活用、ご当地ソングやマスコットキャラクターによる宣伝、また、特産品のブランド化、特徴的施設、自然との調和等による「〇〇の佐倉」として発信する必要があります。</p> <p>自転車レーン併設は、多大な費用と年数を要しますが出来る所から事業化し、50年、100年先を見据えて策定していただきたいと思えます。さらに、夢の一つとして、東葉高速鉄道(東京メトロ東西線)のJR佐倉駅への延伸を長期展望として持ち続けていくことが望まれます。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>	

受付番号	8
提出提言 部門区分	都市(まちなみ景観・駅前整備) 産業(観光振興) 文化(文化振興) 国際交流
提言概要	<p>①行政主導の住民参加型の個性的なまちづくり</p> <p>②高齢化に対応した地場経済振興を考えるべき。</p> <p>③分散型居住区の点在都市としての理解が必要。高齢化による限界集落化、公共輸送問題、日用品購入問題、介護等支援の制度的解決。</p> <p>④地域横断型の共通コミュニティ福祉、公共輸送サービスの制度的確立と担う組織が必要である。</p> <p>⑤魅力ある集落居住環境のために、都市再生活動が必要である。</p> <p>⑥市民参加の計画策定委員会を創設すべき。</p>
提 言 内 容	
<p style="text-align: center;">佐倉市のまちづくりへの提言</p> <p>少子高齢化、人口減少、財政逼迫、地方分権、地場産業の構造的衰退、世界同時不況に伴う失業、収入減、想定資金運用利回り減少からする年金額大幅減少、環境問題、農業の非採算性と従業者の終業化、交通難民化、行政高コスト、今後昨年暮れの米発不況が10年近く継続する等の、従来と異なる諸問題とパラダイムシフトで、地域の問題は大きな質的・構造的歴史的転換期にあり、従来型の枠組みや解決法では捉えられない、世界的に何処にも「解」の無い、難しい時代に至っており、またその解決・アプローチも従来と異なり、市民の能力・理解力を超え、基盤的に創造のある斬新な個性的発想が求められ、我々自治体の能力が試されている事態となっていると思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的としては、矢祭町(山形県)、阿久根町(鹿児島県)、下条町(長野県)等の個性的で活発な行政主導の住民参加型まちづくりが大いなる解決方向であろうと思っている。 ・彼等には、前提としての地方経営、自助努力の発想があり、企画力・構成力、特に実践力を有した、無いものねだりで無い自治体の実践型経営がある。 ・直接街づくりにかかわっていない市民を街づくりに引き込む。住民自治、市民協働を、条例化を伴って具体的に実践し得るのか、実施し得るかに、多くは掛っていると思う。 <p>(1) 中核課題高齢者市民の理解と要素的組み入れ</p> <p> 増える高齢者の高齢化に伴う消費、行動の変化を組み入れないと(従来型の据え方では)問題の何ら本質に迫れないであろう。此処にまちづくり、地場経済振興の鍵がある。従来型駅前商店街中心型振興発想では何も生まれ無いし、アプローチエラーである。</p> <p>(2) 少住民居住区分散都市への理解</p> <p> 一極集中型で無い、少住民居住、分散型居住区の点在都市である我市を理解しないと、何も解決しない、何も生まれ無いであろう。街づくの主要課題である。そして前項に続き、高齢化(若者移転)の都市圏通勤圏の限界集落化問題 公共輸送問題 日用品購入問題 介護等支援の制度的解決問題がある。</p> <p>(3) 集落再生と居住区中央集中問題</p> <p> 都市再生再開で、現行の歯が抜けた状態で限界集落化した点在分散型居住区の再生を図る必要があり、まず①これ等を温存・改良・維持するか、または②スクラップ&ビルドで放棄し、中央に集中すべきかの問題がある。(コンパクトシティ)(小生は現行再生策を採る。)</p> <p> 温存改良の場合</p>	

①新規参入の若者世帯を呼び込めるか、②住民相互扶助型コミュニティを築き得るかを解決せねばならない。それには地域横断型の共通コミュニティ福祉、公共輸送サービスの制度的確立と、担う組織が必要である。

(4) 都市再生問題

新しい介護、高齢化住宅、住民溜まり場、喫茶、飲食スペース、共用公園等の魅力ある集落住居環境の複合的コミュニティ型の地域全体の総合的推進、街づくりの都市再生活動が必要であり、その前提には不動産型解決システムがなければならないであろうし、これが地場経済の再生的振興となる必要がある。

(5) 市民参加の計画策定委員会の創設

従来に無い斬新な、具体的・個性的発想が求められ、また街づくりの具体策の展開と定期的評価を伴った制度を創設しないと真の改革にならず、少なくとも斯かる組織と市民協議化、策定委員会`Task Force`への市民の参加が必要と思っている。

(6) 活動予算化

- ・ 予算の1%を予算化し開始の原資化する。
- ・ 活動組織への工夫と組織：市民抛出の共同組合化も事業単位で必要である。

2. (種別毎)街づくり事業案一覧

- (A) 高齢者 こどもに関連する事業 (A-1) 現状改善 (A-2) 新住民誘致
- (B) 文化(-1) 教育(-2) 医療(-3)
- (C) 自治(-1) 行政改革(-2) 街づくり(-3)
- (D) 地場経済振興事業策
 - (D-1) 地場雇用促進 (D-2) 街づくり (D-3) 商業 (D-4) 農業振興 (D-5) 環境
 - (D-6) 観光 (D-7) 健康、福祉 (D-8) 子育て教育
 - (D-9) Community-money(=Local Currency) (D-10) 買物、交通
 - (D-11) 保安 防災 (D-12) 地場企業化予算

3. 街づくり－具体例 分類種別： ♠ Community Business 化 ♡ 地場経済振興
♣ 地場雇用 ◇ 地域相互扶助型 Community
人口増加

受付番号	9
提出提言 部門区分	都市(駅前再開発・道路整備) 産業(観光振興・企業誘致) その他(施設の用途変更)
提言概要	①ミレニアムセンターを保育所に、駅ビルにスーパーを創ったらどうか。 ②活性化のために、京成駅前の一方通行道路の整備をしたらどうか。 ③観光に力を入れるなら、駅前の再開発をする必要がある。 ④魅力ある提案で企業や業者、地元の商店などのサポートを取り付けることも行政の手腕。
提 言 内 容	
<p>佐倉市は面積が結構広いので、ここがという顔が無い気がします。</p> <p>京成の佐倉駅とJRの佐倉駅も駅はあるけれど、使い勝手が悪く、駅からのアクセスは全てに対して悪い。利用者の大半は自家用車でやってきてドロップオフ、ピックアップで済ませてしまい、買い物などは郊外型の駐車しやすい店舗へ。</p> <p>これではいくら地元を活性化しようと、市民のお金は外からの資本に持っていかれてしまうと思う。</p> <p>転勤で海外の5つの都市と川越と新浦安に住んだことがあります。日本の両方の都市に共通していたことは駅前から活気づいていることです。スーパー、レストラン、銀行があることにより、人々がコアの場所を通過して行動する。観光客もとりあえず駅前に立てば全ての情報が手に入る。佐倉の場合は駅がみすぼらしい上に場所もないので、観光客がどちらの出口か右往左往しているのをよく見かける。</p> <p>ミレニアムセンターも一体誰が利用するのか？ 市役所の出先機関も一度だけ質問があったので駅から降りてワザワザ聞きに行ったら、結局本庁でしか対応できないとのこと。住民票だけならコンビニでもOKかな？と思う。お歌の練習などは中央公民館で十分ではないのか！ お風呂も近くにいても使ったことは無い。沢山の利用を望むなら、お風呂プラスアルファのフィットネスやリラクゼーションの設備が必要で、中途半端なサイズでは赤字になるばかりかと思う。 都内に通勤している人が利用できる施設でないと活性化は無理。あのミレニアムセンターのお稽古場所が例えば保育所で、駅ビルにスーパーがあったら・・・。</p> <p>又、京成駅前の登り一方通行、下り一方通行の道路の両側の店にも協力をお願いして整備しなおさなければと30年ぐらい思っている。上の街まで両隣に個人商店が並んで、通りのネーミングも上手くいけば佐倉銀座を通過しての観光も変わるし、車で通り抜けではなくなると思う。</p> <p>佐倉市がもっと観光に力を入れるなら、駅前の活性化が必要不可欠かと。企業を誘致するなら内陸でもあるのでIT関係かと思いますが、それにつけても駅前再開発が必須ではないかと思います。</p> <p>活性化には税金だけでは無理かと思いますが。税金だけで賄おうとすると入れ物も小さくて使い勝手も中途半端になりかねません。魅力ある提案で企業や業者、地元の商店などのサポートを取り付けることも行政の手腕かと思いますが、ただ勝手な提案で申し訳ないのですが、頑張っしてほしいと思います。</p> <p>新浦安のまちづくりには明治大学??(多分)の教授や大学生が授業の一環として関わったようです。費用は殆どかかりませんし、大学生の教材にもなるので、色々な情報収集もできたようです。一つの例ですが。</p> <p>タマタマ日本にいて広報を眺めたので思わずメールした次第です。誤字脱字、意味不明があるかと思いますが、宜しくご理解をお願いします。</p> <p style="text-align: right;">以上。</p>	

受付番号	10
提出提言 部門区分	都市(道路整備、防災)
提言概要	①道路を雨水が浸透するようにし、下水道への流入水量を削減できれば、調整池の規模を削減したり、地下水への還流効果を期待できる。
提 言 内 容	
まちづくりのための提言	
<p>1. 交通量の少ない道路の舗装のあり方</p> <p>私は健康のため自宅からユーカリが丘駅まで早足で15分かけて歩いています。極力、いい空気を吸うため幹線道路を避けて住宅地内道路を選択しております。</p> <p>路面の状態は必ずしもよろしくなくひび割れ、陥没、泥質の滲出などが見られジョギングされる方はコース選択としては避けるだろうなどと批判的な見方をしております。</p> <p>しかしながら、ひび割れをよく観察しますとそこにはコケ類、雑草類が生命力逞しく生きているのです。</p> <p>ユーカリが丘駅の近くの歩道はブロックを敷き詰めておりますが、やはりその隙間にはコケ類が生息している部分があります。</p> <p>そこで、昔中国駐留中の光景を思い出しました。遠くから眺めると草原のように見える広場があるのです。近寄りますと中が空洞のコンクリート片を敷き詰めているのです。空洞部には土があり草が生えているのです。</p> <p>ユーカリが丘には調整池が備わっており、30年近く前に入居時の説明で「30年に1度の大雨を想定している」とのことでした。幸い、まだ1度も調整池が満水になったことはないように思いますが、日々の生活での安心感があります。</p> <p>確かに、1、2年前の市川市などでの浸水被害を見ますとそのようなリスク管理は重要だと思ふ次第です。</p> <p>住宅地には調整池が必要だと思いますが、ユーカリが丘の調整池の大きさが適正かといえば経済性も合わせると議論の余地があると考えます。</p> <p>一方では、住宅地の場合、道路面積比率は具体的な数値は分かりませんが、相当あると思えます。</p> <p>その住宅地内道路は一般的にはしっかりした舗装面でしょうが、雨水はほとんど浸透することなく下水道へ流れ込むこととなります。</p> <p>これらの道路を完全な舗装面ではなく、雨水が浸透する仕様にすることによって、下水道への流入水量は削減すると考えます。</p> <p>定量的な提言はできませんが、調整池の規模を抑制できるとともに、雨水浸透により地下水への還流効果、道路面の植物緑化によるヒートアイランド現象の軽減および美観的に効果があるかもしれません。</p> <p>交通量の少ない道路に有効な施策と考えますので、今後のまちづくりで試験的に検証を兼ねて実践されてみてはいかがでしょうか。</p>	

受付番号	11
提出提言 部門区分	福祉（地域福祉） 市民（市民協働、住民自治、市民活動、行政運営）
提言概要	①市民で構成する地域福祉審議会の設置。 ②自治基本条例の策定 ③住民主体の自治体運営を行えるよう、市職員の意識改革
提 言 内 容	
<p>第4次佐倉市総合計画の策定に際して考慮して頂きたい点を下記に取りまとめましたのでご高配のほどよろしく申し上げます。</p> <p>[地域福祉審議会の設置] 地方自治体の責務は、地方自治法にあるとおり「住民の福祉の増進を図る」ことである。</p> <p>この、「住民の福祉の増進を図る」ため、佐倉市においてどのような施策が必要なのかの議論を住民主体で行うためには、[地域福祉審議会]の設置が必要である。</p> <p>首長、市議会、市役所主導の地域福祉ではなく、地方自治・住民自治の原則に立って、真に市民の必要とする地域福祉のための各種施策等を審議する機関として既に全国各市町村で設置がすすめられている〔（市民で構成する）地域福祉審議会〕を設置することが最優先課題である。</p> <p>[自治基本条例の策定] これからの地域福祉の推進にあたっては、地方自治・住民自治の視点が重要である。また、公共（行政）サービスをすべて市役所が担うのではなく、新しい公共の考え方に基づいて、真の意味の「市民協働」を取り入れていくことが必要である。</p> <p>その大前提として、市長、市議会、市役所機構、住民等の役割分担も含めて、佐倉市自治の基本的な考え方を示す自治基本条例の策定が必要である。</p> <p>「自治基本条例」については既に全国各地で制定されており、蕨市長のマニフェストにも謳われているので、早期の策定を実現して頂きたい。</p> <p>[市役所職員の意識改革] [地域福祉審議会の設置]にしても、[自治基本条例の策定]にしても、これを実現するためには、まず、市役所職員の意識改革が必要である。</p> <p>地方自治・住民自治の主旨、新しい公共の考え方、官・公・私協働の仕組みを理解し、住民主体の自治体運営を行えるよう意識改革が必要である。</p> <p>もちろん、この意識改革は、単に行政職員のみでなく、首長・市議会・市民の意識も変えることが必要不可欠であるが、そのスタートとして市役所職員の意識改革が絶対に必要である。</p>	

受付番号	12
提出提言 部門区分	都市（公共交通、道路）福祉（障害者、地域福祉）産業（農業、観光） 環境（自然、ゴミ）文化（文化）市民（市民意識、市民参加、協働（行政）
提言概要	①子育て支援策の充実・若年層の定住促進へ ②高齢者対策の、老幼施策の連携や地域生活支援へのシフト ③ユニバーサルデザインのまち、障がい者が暮らしやすいまち ④都市基盤整備、公共施設管理、産業振興は無駄をなくしてソフト対策で。 ⑤市民参加、環境保全は市民の自主性で。行政はその支援を。 ⑥労働者の待遇改善を視野に入れた、公共事業の発注。 ⑦平和・人権施策の充実
提 言 内 容	
<p>「共生」をキーワードにしたまちづくりを</p> <p>●はじめに 第3次総合計画において「歴史・自然・文化」をキーワードとして10年が経過しました。この間に少子高齢化・若年層の雇用破壊が一層深刻化しました。4年前の小泉改革が社会保障制度を根底から揺るがしたことに對して、この夏、国民の多くはNO！を突きつけ「コンクリートから人へ」をキャッチフレーズにした新たな政権が生まれました。大型公共事業の見直しは必至です。自由競争と市場原理に任せた弱肉強食の時代から、人権や平和を大切にした「共生」社会が求められています。</p> <p>●子育て支援策の充実・若年層の定住促進へ 少子化に歯止めがかからない一番の理由は、若年層の雇用悪化です。派遣や請負による不安定雇用が結婚も出来ず子どもも育てられない事態を生み出しました。人材が唯一の資源であるはずの日本にとって大変な事態となっています。 首都圏近郊の地方都市である佐倉市は、若年層の雇用確保という大きな課題を担うことは無理ですが、若年勤労世帯が安心して子育てができ、定住することを選択してもらえる街として再生することは可能です。 そのための子育て支援策は特にきめ細かく個々の事情に応じた支援が求められます。ファミリーサポート事業がようやく来年からスタートしますがその安定的な事業運営と市からの支援は不可欠です。また、保育園の民営化という後ろ向きの方向性ではなく、公立保育園の優秀な保育士確保と保育の質の向上、民間の先頭にたって子育て支援策の充実を図ることが大切です。学童保育事業も、ほぼすべての小学校区に出来ました。質の向上はこれからです。インストラクターの待遇改善が求められます。若いインストラクターが安定して働き続けられるようにすることは、若年層の雇用確保という点でも大事な視点です。子どもへの医療費の無料化は、若年層の子育て世帯には必要な施策です。</p> <p>●高齢者施策 高齢者施策はこれまでの発想を大きく転換させる必要があります。まず、敬老会行事で記念品や祝い金の配布は見直してもらいたいと思います。その経費とエネルギーを一人暮らしの高齢者や老老介護をしている高齢世帯への支援策としてシフトしてください。 学校や児童会館等、学童保育をしているスペースは、児童が学習している時間を、日中の高齢者の活動の場として提供することを提案します。また、給食も実費を支払ってもらい、子どもたちと一緒に楽しめる企画をしてはどうでしょうか。地域の学校を高齡</p>	

者に積極的に開放して利用してもらい、花壇の手入れなど、可能な範囲で高齢者の活躍の場も提供することが生き甲斐づくりにも繋がります。

地域包括支援センターの運営が5圏域にわかれ民間委託で行われています。民間に仕事内容をお任せするのではなく、5圏域の地域の特徴を捉えた支援策と地域間でのばらつきがないように運営に対しての支援や指導を求めます。今後は、高齢者支援に限らず障がい者も含めた幅広い権利擁護や在宅生活への見守りなども事業の中に組み入れていくように求めます。

介護保険の枠を超えたきめ細かなまた、上乘せをした高齢者の地域生活支援事業を行うことがひいては医療費の削減に繋がります。保健師や看護師の増員による地域訪問活動の充実や在宅でも相談を受け付ける介護相談員の増員が望まれます。

●公共交通網の整備拡充

公共交通網の整備は、既存バス路線の拡大では見通しが危ういと思います。採算面だけでなく今後ますます増加する高齢者の移動手段としては立ちゆかなくなります。既存のバス路線は各駅間の交通アクセスの動脈として残し、枝葉の路線としては、ドア to ドアで送迎するシステムが特に佐倉市の農村部で求められます。多少経費と利用料金がかかってもダイヤモンドである方が高齢者のニーズに即して使いやすいからです。小型のマイクロバスを導入し、朝と夕方～夜間は停留所方式で、頻回に地域と駅や学校をつなぎ通勤通学を主体とする運行をし、昼間は高齢者の通院や買い物に利用できるダイヤモンドにすることで、採算がとれるように検討すべきだと思います。

●障がい児・者施策

障がい者施策は特別はいりません。「混ざり合って育ち、混ざり合って学び、混ざり合って働き暮らすにはどうしたらいいか」その視点ですべての施策を顧みてください。キーワードは「ユニバーサルデザイン」のまちづくりです。障がい者にとって使いやすいものは誰にでも使いやすいということです。まず、一緒にいることが当たり前であるように、地域行事、保育園幼稚園、学校、職場至る所に障がい者がいて当たり前にすることが大切です。就学前は比較的地域に混ざり合っている学齢期に分離教育の中で分けられていくことが多い現状です。共に学ぶことを希望するすべての保護者にフリーパスで門戸を開け必要な施設設備も含めて支援体制を講じてください。共に学ぶ教育への第一の壁は就学指導委員会です。埼玉県東松山市では、就学指導委員会を廃止し、障がい程度で分けることをやめ、すべての障がいをもつ子の就学の場の選択肢を広げました。また、特に地域外の特別支援学校に学ぶ障がい児は地域からも切り離されています。せめて放課後は地域へ戻るように、学童保育における放課後活動支援を積極的に推進すべきです。職場での支援は行政の意図的働きかけが必要です。庁内就労の拡充は当然のこととして、地元企業への就労斡旋と支援体制を検討していくべきです。また、庁内就労にあっても、事務職だけでなく、庁舎内にたとえば喫茶軽食コーナーなどを設けその運営等担わせることで、多くの市民や職員と関わり合える場を提供することも提案します。暮らしの確保は、障がい者自身の自己決定を重視しグループホームやケアホームへの支援だけではなく、一人暮らしやシェア居住など多様な暮らしの選択を提供し、それぞれに応じた個別支援のあり方を検討することを求めます。

●都市基盤整備

都市基盤整備については、大幅に見直しが必要です。

都市マスタープランに示されていますが、すでに頓挫した都市計画道路や新駅構想、大型公園の整備や新市街地の造成などは、全面的に見直しをはかる必要があります。

下水道整備についても、市街化区域はほぼ100%に近い整備率に達しています。今後は、拡大ではなく、老朽化した下水管の更新や維持管理に予算を使い、調整区域につい

ては合併浄化槽の普及をはかるようにすることが望ましいと思います。市街化区域に隣接する調整区域の拡大も条例が廃止になり見直されましたが、市街地に残る残余地のミニ開発においてスプロール化することのないように行き止まり道路を許可しないよう宅地開発要綱を見直していく必要があります。

今後、大きな予算が予定される志津霊園区間道路については、その税金の投入の是非も含めて市民意見を聞くことが求められます。さらに最小の経費で工事を進めるためには、移転に対して補償金の内容も精査し市民に説明する義務があります。見直しも視野に入れての検討を求めます。寺崎特定土地区画整理事業は、事業の遅れと事業費の見込みが危ぶまれる事態となっています。都市再生機構とは事業費不足や今後予想される地盤沈下等課題に対して明確に取り決めをすべきです。

●公共施設管理

公共施設の耐震化や経年経過による劣化の補修など建物の改築や維持管理に相当額の予算がかかることは必定です。如何に計画的に行うかが求められるが、その際に市民公募債の発行も一案です。利率は通常の高利より低くしても、市民が将来のまちづくりに資金面でも関わられる積極的な点をアピールしながら行っていくことに意味があります。

公的施設の一元管理システムは早急におこなうことが望まれます。無駄を省き必要なところに予算を投入出来ると共に事業執行の優先度に透明性がはかれる利点があります。

市営住宅跡地、特に宮小路地区の跡地は交通の便も良く、歴博の近くという利点もあり、保育園や高齢者施設等の利用価値がある場所です。今後、少子高齢化社会を見据えた施設整備を検討すべきだと思います。

●産業振興

観光と農業振興をリンクさせたグリーンツーリズムや産直野菜の直売のネットワーク化などハード整備からソフト面での施策が求められます。

耕作放棄地を市民農園として貸し出し、さらに本格的に農業を始めたいと考える市民への支援策も検討してください。

印旛沼・市民の森・サンセットヒルズ・歴博・城下町境界の歴史的建造物などこれらを結ぶルートの整備も必要です。現在の循環バスのルートを観光ルートとリンクさせて集客数を増やす試みも提案します。

●環境保全

不法投棄などの環境悪化を招く行為に対しての監視と抑制のより一層の取り組みも必要です。市民のモラルアップのためにも環境問題をわかりやすく関心を持って取り組めるよう一回限りイベントではない継続的な取り組みが求められます。また、残土産廃が持ち込まれないためには、安易に産廃業者に土地を売り渡さないよう地下水や土壌の汚染について学ぶ機会を設け、さらに耕作放棄地や遊休地の有効活用についても地域ぐるみで取り組んでいけるように経済環境部の関係各課や市民部自治人権推進課との連携が求められます。佐倉市の残土条例が有効に機能するためには地域住民の環境に対する意識の高さが必要です。

●市民参加・市民自治

市民参加、情報公開など施策に意見が反映されるだけでなく、自らも公益活動に参加し自己啓発や生涯学習の機会として活動できる場を提供することが求められます。

市民カレッジ、市民大学という行政主導型の学びの場だけではなく、市民の自発的な学習会に対して、公民館、図書館、コミュニティセンター、美術館のほかに地域の学校

の余裕教室もしくは図書室、集会室、多目的室などを無料で開放する取り組みも推奨してもらいたいと思います。公的施設の有効活用に繋がると共に、地域住民と児童生徒が自然とふれあう場の提供ともなります。西志津地区の多目的広場の活用が図られるように市民意見を聞きながら整備をすることも求められます。

市民自治は、行政主導の「市民協働事業」という枠に取り込むのではなく、地域の自発的な集まりをベースに行うべきと考えます。既存の地縁組織に「まちづくり協議会」を組み込む方向については見直しを求めます。そこに配分する交付金も見直しを求めます。

●入札改革

行政執行における透明性の確保と説明責任は重要です。これまでの入札改革は財政の削減のために企業間の競争性を持たせるために進められてきました。その方向性にはひずみも生まれています。競争激化による労働ダンピングの問題です。特に市内の中小事業所が結果的に大手企業に仕事を奪われていくことになり、赤字覚悟で人件費を相当に削っての落札という事態も招いています。今後は地域内の経済発展や地域内の循環型経済の振興という観点から、さらなる入札改革を求めます。具体的には総合評価入札の導入であり、労働者の労賃に対して公共事業の発注者が関与する公契約条例の制定、最低入札価格の導入などです。

●民間委託の見直し・職員の待遇改善

公共サービスの民間委託や業務委託、指定管理の導入はここ数年間で著しく増加しています。財政削減がその第一義的な理由です。しかし、そのことで市民サービスの低下やそこに働く人たちの労働条件の悪化が顕著になっています。行革の推進によって官製ワーキングプアといわれる臨時非常勤職員の増も深刻です。税金の無駄遣いは許されませんが公務公共労働を担う人たちの著しい労働条件の低下は、巡り巡って公共サービスの低下に繋がります。税収も落ち込み、地域経済も疲弊します。皆で支え合う「共生」のまちづくりには、リビングウェッジ（人らしく暮らしていける賃金の保障）の考え方が公共の仕事にも必要です。安ければいいという考え方から転換していくことを求めます。臨時非常勤職員の待遇改善と財政面からだけの業務委託の推進、民営化には見直しを求めます。

●医療・保健問題

医療・保健問題については、後期高齢者医療制度が廃止になることで、これまで数年間の医療制度が根底から変化する見通しとなりました。市町村が保険者となっている国民健康保険制度にあっては、市民の約4割の世帯が加入していること、その所得水準も低い層が多く、退職後の高齢者の加入率が他の被用者保険に比して圧倒的に多いことから、市としての独自の支援策が求められます。特定健診やガン検診等に対しても、他市に比して低い受診率であることから、自己負担額の引き下げ等の検討が求められます。

●平和・人権施策

人権・平和施策についてはより一層、力を入れて取り組んでももらいたいと思います。平和使節団の派遣は限られた生徒たちの体験にとどまっている感があるので、その人数もしくは機会を増やすことや修学旅行等で広島を訪れるという企画も積極的に取り入れることを提案します。また、広島や長崎という戦争の被害者側の側面と同時にアジア各国に対して加害者としてあった日本の歴史も正しく教育することが、今後アジア諸国や世界各国で活躍する人材を育てる上で大切な視点です。是非、平和教育の中に取り入れていただきたいと思います。また、人権教育については、広報等で定期的継続的にテーマとして取り上げていってください。人権問題は、生活のすべてに関わる問題です。職

場においてはセクハラ、パワハラにも関わる労働基本権の問題として、学校においてはいじめの問題があり、また、どの子も等しく学ぶ権利の問題として、さらに家庭における虐待問題などすべてがこのテーマと関わってきます。「一人一人が大切にされること、違うことで排除されないこと、年を取っても障がいがあっても共に豊かに生きられる社会であること」をあらゆる場面あらゆる機会をとらえて啓発していくことが大切です。同時に権利擁護や権利を侵害された場合の救済についても具体的に検討を進めてください。高齢者や障がい者、子どもの虐待防止についても高齢者福祉課、障害福祉課、児童青少年課が連携を取ってサポート体制の強化を図ってみたいと思います。

受付番号	13
提出提言 部門区分	都市（公共交通） 福祉（障害者対策） 産業（農業、工業、商業、観光振興） 環境自然 市民（市民意識）
提言概要	①住環境の充実、医療・介護・生活必需品が身近に買えるまち ②緑地・生態系の保全者としての農業後継者の育成、休耕地の活用 ③医療機関のソフト面の充実と、医療従事者への支援 ④インターネット網の充実 ⑤高齢者との地域サービス協働
提 言 内 容	
<p>佐倉市は地勢的にみれば、江戸時代には東北方面に対する歴史的要害の地であったため譜代大名、親藩大名が統治する土地であった。現代では東京都心に近く成田空港を控えて交通上でも経済的にも便利・有利な位置にある。しかし、これらの特性を生かした市政や環境醸成はまだ十分とはいえないのではなかろうか。</p> <p>住民は都心に通勤する勤労者と地元農業従事者及び商工業従事者の三者で構成されているが、その多くは市外通勤による所得給与で生活する住民であり、佐倉市の歳入の多くの部分をその所得給与からの徴税によって賄われている。すなわち都心の近郊ベッドタウンと見ることができる。</p> <p>こうした観点から見た時、佐倉市は将来どうあらねばならないだろうか。以下の3点をその要点としたい。</p> <p>（1）ベッドタウンとしての要件を十分に充たすために、住の環境を充実させる施策が第一に必要である。それは住宅の再開発などではなく、具体的には住環境としての、里山の樹木の保全や谷津や田畑の田園風景の保全、水辺の保全などであり、その補修と一部道路の補修が必要であるだろう。またその一方で生活のために子供のための保育環境、教育環境が重要であり、成人のためには通勤の便宜や身近なレジャーと憩いの場が必要であり、高齢者にとっては、医療や介護、そして生活に必要な身近な買い物が可能なマーケット等の充実が必要になる。小規模のマーケットなどは当然、市内の商業従事者の就業先でもあり税収にも寄与すると予想される。また医療や交通のための便宜施設はすべての住民にとって住みよい町作りになるだろう。</p> <p>（2）緑の保全や谷津の斜面林の保全、多様な生物保全（昆虫、魚、小鳥）などには住民の農業従事者の営みによるのであるから、その生活の安定と次世代育成が欠かせない。</p> <p>農業は大きな産業ではないが、これをなくしては環境の保全充実はなく、また大きく変貌し続けている分野でもある。農業従事者自身の生活の充実もなくてはならないが、従来型の大型農機具と農薬による農業は、行き詰まりを見せており、どのように打開するかはまだ明らかではない。しかしさまざまな試みは行われているし、未経験者の参入やボランティアの協力などを利用して打開の道を模索する必要がある。現中央政権は、農業従事者に戸別補助金を出すという政策を考慮しているようだが、市政としてもなんらかの方策を探ることは必要だろうと思う。具体的に提案できるのは、地産地消の米価格の安定化（場合によっては補助金）とか、ボランティアとの交流の機会提供や各ブロックに「〇〇地区農産物直販所」と銘打った公的スペースを農家各戸に提供し、その広報活動を援助するなど地域のボランティアと共に行うなどであろうか。その一方では農地が放棄されたり、産業廃棄物の不法投棄の場所にならないように、あるいはそのような不法所有者に土地が渡らぬように法的規制をかけて、また抜け道をなくすようにすると共に、該当したポイントはナショナル・トラストのような公共の土地にするなどの法的方策も考えなければならないと思う。</p>	

(3) 商工業者の育成には市内全体の有機的な結びつきが必要であり、町自体の経済的活性化が必要になる。佐倉市には比較的大きな病院があるが、これら病院の繁栄なども市街経済の活性化のためには重要なポイントだろう。大きな病院、そして名医のいる病院には遠方からも患者が訪れ、ホテルに宿泊し、見舞いの買い物をし、患者の買物のためばかりではなく、周囲商店の繁盛にも結びつく。ではどの様にして名医を呼ぶか。簡単に安直にはできないだろう。こうした場合、長い目で見た施策が必要だろう。例えば、病院に隣接して保育園を建設し、保育の優先権を医療関係者に与える。また患者のための託児もする。こんな親切施設が育児を抱えた医療従事者の労働条件を緩和し、良い医者や看護師などが居ついて、育って行くことになるのではないだろうか。

また高価な医療機器などの導入には市からの補助金を用意するなどの方策も考えられる。医療を街起こしのテコとするためには医療従事者などとの懇談会を開いてその充実案を検討しなければならないし、また開業の個人医との話し合いの場も市政が持つことが必要だ。

(4) さて結論として佐倉市には産業としてのどういう可能性があるだろうか。観光は悪くはないがリピーターを呼ぶにはそれだけでは心もとない。有名な大病院があつて国立歴史民俗博物館とささやかな武家屋敷と城郭などと、そして心なごむ印旛沼風景。それにしても必要なのは古い伝統のある菓子や産物であるし、それらが出来るのはやはり時間を経てそして交通の便利とテレビやインターネット等の通信による宣伝があつてのことではないだろうか。

現在、大きなインフラとして街起こしの起爆剤となり得るのは光ケーブルであるだろう。千葉市や柏市には太い光ケーブルが敷設され、産業、教育研究やその他に利用されている。佐倉市もこれらインフラの充実をはかり、そうした先進的な設備を誘致することがソフト産業の育成の切っ掛けになるし、環境的に有利な立場を築ける。もちろん医療の他地域との連携への応用にも役立つ。光ネットを使用し充実したソフト企業の育成が望まれる。

忘れてはならないのは、今後の社会は少子高齢化の社会でありハコモノ投資で繁栄する市街ではない。そして多くなる高齢者の意識的参加や協力なしには街の活性化も有り得ないという見通しである。それには市民、NPO、ボランティアなどいずれの形をとるか分からないが、協力を求めて意見を聞き作業への参加が欠かせない。

ドア・ツウ・ドアのサービスのワンコイン・バスの運行、医療の充実と医療従事者の幼児の保育などでの労働条件を緩和、そのことによって医療自体も充実させる。保育は働く母親を助け健全な児童の生育に缺かせない。教育も充実させる。空き家・空きビル利用の介護老人施設、グループホームの建設。農業従事者への補助と土地利用規制と市民農園の充実、これらの要求は実は佐倉市内の地域によっても多少の違いはあるだろう。JR佐倉駅周辺地域と京成佐倉駅周辺地域、そして臼井・ユウカリヶ丘地域と京成志津駅中心の南側地域とその北側、また西志津ふれあいセンターを中心とした勝田台に近い地域など踏査しアンケート形式の聞き取りの調査も必要だろう。個々の要望と全体としてのまとめによってさらに詳細な立案が必要と思われる。以上がご参考になることを希望したい。

受付番号	14
提出提言 部門区分	都市(まちづくり、公共交通) 医療(地域福祉) 産業(農業、観光推興) 文化(歴史、子育て支援) 環境(公園、資源、印旛沼) 市民(市民意識)
提言概要	①若年層、働き盛り層への施策(公共事業と就業機会の創出、地域医療や保育施策の拡充) ②高齢者層、働き盛り層への施策(介護支援、ミニ版老幼の館への支援、スポーツ施設整備、給食支援) ③交通体系改善(京成電鉄の便数増、京成佐倉駅ハブ化と乗継料金割引によるバス利用の利便性向上、市内タクシー業者の料金低減) ④観光(印旛沼のイベントや遊歩道、城跡など歴史資源の活用、食) ⑤教育(教育委員公選制、学力テストの是非、社会人の教育現場への参加)
提 言 内 容	
<p>はじめに</p> <p>人が人として生き生き生活できるならば、全ての年齢層で人口が増え、結果として佐倉市が活性化してゆく。そのような方向で提言を行いたい。</p> <p>1. 若年層への施策</p> <p>日本全体が人口減少に向かうと予測されているなかで、当市が意図的かつ急激に転入人口を増やそうとすれば、他市町村との競合関係が起き、ゼロサム・ゲームの中での食い合いになる。</p> <p>そのような無意味な競争を避けるには、現在または将来生まれてくる若年層が佐倉市で生活できる環境を用意することが出発点となる。それが可能であれば若年層の人口は流出しなくてすむし、うまくすれば、若年層の流入人口も自然増(意図的ではない)も期待できる。</p> <p>そのためには、まず雇用の創出と確保が必要となる。しかし過去の佐倉市の企業誘致の成果を見ると、産業界による雇用創出に大きな期待は持てない。次善の策としては、子育て支援や介護支援などの関連事業で就業の機会を作ることである。勿論、市としても必要な行政支援を行うことで、就業の機会を提供すべきである。これに関連して、現行の指定管理業者制度や一般入札に対し異議がある。なぜならコストを下げる目的だけでこうした制度を活用すると、市内における事業者が減り、結果として雇用の機会が減るからである。勿論、政官財癒着のようなあり方は論外であるが、今のやり方も決して最善とはいえない。発想を変え、街づくりと就業の機会創出を連動することができないか。今のままでは、例えば市内の業者で下水道工事ができなくなれば、下水道工事のノウハウが佐倉市の事業者から失われ、競争入札に参加することすらできなくなり、その結果技術が失われるだけでなく、事業者は倒産し、就業の機会もなくなる。</p> <p>次に必要なのは、若年層(子供を生む予定の中年層も含む)が安心して子供を生め、子育てできる環境を用意することである。そのためには産科・小児科を含めた地域医療のサポート、子供医療の無料化、公立保育園・公立私立幼稚園・学童保育の拡充があげられる。こうしたものは、行政が主体的に関係団体などと協議をして実現すべきと考える。</p> <p>2. 働き盛り層への施策</p> <p>この層は子育てしたり、親の面倒を見たりしている。東京、千葉、成田などへ通勤する人も多いであろう。子育てをしている人には、若年層と同様の支援が必要である。また親の面倒を見ている人には、次に述べる高齢者層への施策と同様の支援が必要であ</p>	

る。

家族の中で、聖隷病院または東邦病院に行かざるを得ないとき、現在では車がないと非常に不自由な状態である。後で述べる交通体系の改善・整備が必要である。そうでないと安心して仕事に行くことができない。こうした状態が長期に続けば、佐倉市から他市への転出となる。勿論この問題はこの層だけのものではないことは言うまでもない。

3. 高齢者層への施策

介護を必要とする高齢者には、介護支援が受けられるようにする。現在の介護保険による適用や市にある施設などが不足であると議会討論でいつも聞かされ、いつになれば先が見えるのか。こうした状況では介護を求めている人々は不安に陥るしかない。行政は責任を持って一步一步解決を図ってもらいたい。

介護を必要としない高齢者に対しては、日常的に交流できる場を設けることが望ましい。その一環として各自治会にある集会所の利用はどうであろうか。例えば、条件の合う集会所を市が運営している「老幼の館」のミニ版にできないだろうか。各自治会で運営をサポートする体制（たとえば高齢者などのボランティア・グループ）を整えば、市は行政として援助する。一つは運営のノウハウを。もう一つは水光熱費などの経費。このミニ「老幼の館」には、保育園や学童保育の輪からはずれた、子供たちと親も一緒に利用できるようにする。このミニ「老幼の館」には、図書館のお話キャラバンの出前も行うこともする。

更に、高齢者の健康促進・維持のためのスポーツ施設の整備がある。もっとも簡単にできるのは、街区公園に簡単な器具を設置して利用してもらうことである（余談であるが、北京の公園では早朝から夕方まで、老若男女を問わず多くの人々がこうした施設を利用している）。次に、このたび四街道も佐倉市・酒々井町の清掃組合に加入することになったので、温水プールの共同管理ができないか（四街道温水プールをつぶすのではなく）。様々なデータからみても明らかのように、高齢者の水中運動は負荷が少ないうえに、新肺機能の向上、筋肉の訓練にもってこいである。

介護を必要としない独り暮らしまたは老老二人暮らしでは、周りに誰もいないさびしい環境で食事をとらざるを得ない。こうした人々で希望者には小学校などで子供たちと一緒に給食をすることはできないのだろうか。勿論、食事代は有料である。

以上のことが可能であれば、幼児からお年寄りまでが安心して佐倉市に住み続ける可能性が大になる。次に、以上の施策をサポートする交通体系の改善・整備に話を進める。

4. 交通体系の改善・整備

第1に鉄道の改善。まず新駅の構想は採用しない。今ある中で可能性の大きい選択を迫及する。佐倉市からみてより重要なのは京成電鉄である。現在多くの市民が不満を感じているのは臼井一志津間と佐倉の分断状況である。臼井から西の人が佐倉へ来るのも、佐倉から臼井以西に行くのも1時間に3本の列車しかない。この状態を許していたら、佐倉地区はますます他の佐倉市から分断されてしまう。来年成田空港新線が開通するのを機に、京成はスカイライナーや特急のダイヤを大幅変更する予定と宣伝している。この好機を逃さず、佐倉市は市民とともに京成と交渉して、日中の時間帯、佐倉市内の列車本数を10分に1本になるよう交渉すべきである。簡単にいえば、臼井止まりをすべて佐倉まで持ってくればよい。もちろん佐倉以東でも構わない。

通勤時間帯については、スカイライナーの運行が成田新線の方へ移行するのだから、上り方面ではモーニングライナーを含め特急の本数とスピードを上げることが可能になるのではないか。通勤・通学者にとって両方のサービスが増えることは喜ばしいことである。同時に成田空港方面の朝の列車を増やしてもらいたい。特に早朝の飛行機に乗るためには現行の成田空港行きのダイヤではとても列車が少なく、不自由である。

第2に京成系列定期バスのダイヤ改善と運賃割引またはゾーン料金の導入について。バスのダイヤについては、京成佐倉駅南口をハブに位置付けて、短距離、中距離、長距離路線バスの運営モデルを協議する。私の住む白銀を例にとれば、白銀ー京成佐倉と白銀ーJR佐倉の両方があるが、後者は1日数本という内容。しかも通勤時は警察前から東中まで渋滞になることもしばしば。これを解決するのに本数を増やしても効果はない。それより京成佐倉駅行きの本数を増やし、京成佐倉でJR方面に乗り換えるとき割引があれば、時間的にも、経済的にもペイするのではないか。またこの割引制度は、京成佐倉駅で乗り換える聖隷病院行きなどにも適用する。こうすることで、バス利用の利便性が高まる。ちなみにシンガポールではバス間だけでなく、鉄道との間でも大幅な割引がある。またカナダのトロントでは目的地までの間は2時間以内であれば、バスでも鉄道でも何回も乗り降りできる。

更に京成佐倉駅ハブ化のためには通勤時間帯の京成佐倉駅南口の定期バス・スペースの確保が重要になる。市が主体的に関係者と協議してほしい。

私見だが、長距離バスの運営はバス会社からみると採算性が悪いと考えるがどうか（運転手と車両の数が増えるので）。もしそれが事実なら、四街道行きは京成佐倉から出さず、志津から出す。そのためには鉄道で京成佐倉と志津間の本数が改善されていなければならない。

第3に現行定期バスサービスがほとんどない地区。議会で何度かダイヤモンド型のサービスについて質疑を聞いた。これもよい考えだと思う。また定期バスを幹線に走らせ、ダイヤモンド型バスを支線サービスに走らせるというモーダル・ミックスも考えられる。いずれにしても、佐倉市民で移動の自由が束縛されないように行政は努力する必要がある。

第4にタクシーについて。白銀でタクシーを呼ぶと基本料金が到着までにチャージされる。何メートルも進まないうちにメーターが変わり、八百数十円になる。これではタクシーの利用を少なくしろと言っているようなものである。他市で聞いてもこのような高額サーチャージがある話を聞いたことがない。こうした理不尽な制度はタクシー会社と運転手の首を絞めるもので、百害あって一利なしといえる。駅から遠い住宅団地の多い佐倉では、本来タクシーにとって有利なはずである。今のような駅待ちアイドル時間が長いのは環境にも良くない。そこで、市がタクシー会社を佐倉市の公共交通機関の一つと位置付け、理不尽な高額サーチャージに代わって妥当な呼び出し料の設定を協議すべきである。合理的なタクシー料金になれば、緊急の時に自家用車ではなくタクシーが利用できるようになり、利便性が高まる。

5. 観光振興施策

佐倉市にはディズニーランドのような人工的な空間的資源はないが、自然と歴史に恵まれた資源がある。最大の自然資源は印旛沼とそれをめぐる印旛流域空間である。かつて香取の海と呼ばれたこの地域は、同時に歴史に恵まれた地域でもある。古くは新生代の地層から弥生、そして戦国から江戸末まで、多くの地質的、歴史的資源に恵まれている。しかるにその自然資源や歴史資源を利用できるように佐倉市は過去努力をしてこなかった、という言い過ぎになるので、したかもしれないが効果がほとんどなかった。都心から電車で1時間のところにある城下町のはずなのに、京成の駅を降りても城下町の雰囲気は全くない。では、自然は？駅を降りても印旛沼流域の雰囲気はない。歴史も自然もあるのに、第1印象ではそうしたものは全くない。いまさら泣き言を言っても始まらないので、この条件をベースに、佐倉市の2大資源を大いに利用できるようにしたい。

最初に印旛沼流域。花火を不要とは言わないが、もっと長時間多くの人が印象に残るイベントを企画できないのだろうか？チューリップ祭りはとても良い試みだが、時間が短すぎ、タイミングが悪いと、花を見ることができないで終わってしまう。印旛沼の周

りは冬を除けば花々に恵まれている。春レンギョの黄色い花から始まり、桜、チューリップ、アジサイ等など秋までとても多彩である。冬は冬で多くの水鳥が集まっている。野鳥の森、草ぶえの丘、市民の森などを含めた美しい花のイベントを複数企画することが必要である。

同時にアクセスを確保することも重要。佐倉駅にしても臼井駅にしても印旛沼へ行くまでの遊歩道がない。歩きながら自然を楽しんでもらうためには遊歩道が必要である。幸い県の事業で鹿島川拡幅工事が行われている。堤防ができる前に遊歩道化できないだろうか？佐倉一印西線の踏切を渡ったところから遊歩道が始まり、ふるさと広場まで続けばウォーカーにとって素晴らしい空間になる。その間に花壇があったり、並木があったりすればもっとよい。花壇にしても植樹にしても一遍にすべてする必要はなく、徐々に整備すればよい。

体の不自由な方々には、現行のミニバスサービスで対応する。土日祝は、1時間に1本の運行が望ましい。おそらく、多くの佐倉市民を含め、他市の人たちはこうしたバスサービスがあることをほとんど知らないのではと危惧している。佐倉駅一ふるさと広場間のバス時刻表を観光案内所や駅バス停に掲示しておくこともよいかもしれない。

さらに市内、近隣市町村の学校の校外活動の一環に印旛沼を利用してもらおう。勿論そのほかの介護施設などの団体にも利用してもらおう（現在も時々車いすでこられている人を見かける）。

ところで、印旛沼周辺利用に関し二つの問題点がある。第一は、自衛隊の沼周辺の陸上と上空の利用である。観光地で軍事訓練をされては、全く逆効果である（陸上は市民と観光客の憩いの場であり、上空はオオタカを含めた鳥たちの憩いの場である）。よく考えてもらいたい。第二は、野鳥の森出入り口の産廃の巨大な山である。この産廃は印旛沼周辺の利用の障害物であり、県と協議して早急に取り除くよう働きかけるべきである。2年ほど前には、そのすぐそばにわけのわからない小屋が1棟建ってしまった。行政はもっと真剣に監視をすべきと考える。

いずれにしても他市の多くの観光客が来てくれないことには印旛沼流域の自然も泣いてしまう。年間観光客数はどれくらいなのだろう？観光案内所の利用者数はどのくらいなのだろう？

次に歴史資源について。歴史資源の主要なものは、歴博、城址公園、本佐倉城と考える。歴博の活動（市民への歴史講座を含め）と佐倉の歴史資源を有機的に結合することを考えてほしい。例えば、今回の特別展では縄文時代がテーマになっている。佐倉市にある縄文時代の遺跡案内とか、もしなければ弥生初期の遺跡案内とかを案内する。

城址公園は公園としても素晴らしいが、規模が大きい割に石垣のない佐倉城は当時でもめずらしかったと考えるが、そうした特徴を印象付ける説明がどこにもない。そういうものがあれば、知的好奇心を訪れた人に与え、リピーターになる可能性が大である。

本佐倉城が国指定遺跡になったのは喜ばしいことであるが、あまりに人手が入り過ぎてしまったのが残念である。いずれにしても税金が投入されて、整備されたわけであるから、これを活用すべきと考える。日本の城に興味がある人から見れば、戦国末期から江戸初期にかけて、城のネットワークの在り方を目に見ることが出来る佐倉市は非常に面白いはずである。そのためには、佐倉城跡、本佐倉城跡と篠崎城跡などの出城などのコース案内などを設けるのはどうだろうか。その中には電車、徒歩、バスの情報も含める。

以上の自然・歴史遺産資源に加えて、食についてはどうか。野菜、米などの食材および加工品の展示販売をチューリップ祭りのときに行っているのは、観光客に対する佐倉の「食」についてのよい宣伝の場になっていると考える。その意味で、さらに印旛沼の自然を利用してそうした機会を増やすことが望ましい。

そうした催し物の時に、同時に佐倉の料理店の宣伝もできるとよいと思う。佐倉駅の周辺でも従来型の和洋中食店もあればイタリア料理やインド料理の新しい店もある。市

内全域に拡大すれば数はもっと多い。食材を含めた食文化の豊富さを宣伝することが必要だと思うが、如何であろう。目新しい店のオーナーをみると外国人や若い人がいる。こうした人たちが、事業として成功する姿を見れば、観光以上の好印象を人々はおもつであろう。それには、まず市内の人がそうした店を知り、味を知ること、他の人々に伝達することができる。行政も何か催し物をするときには、条件に応じて、山万グループのユーカリだけでなく、こうした店をも考慮することが望ましい。

6. 教育施策

最後に、佐倉市の次世代を担っていく子供たちの教育施策について述べる。

私個人としては、日本国憲法、世界人権宣言、人権規約AおよびB、子どもの権利条約にのっとった教育を目指してほしい。現実には、残念ながら複雑な利害関係が錯綜して、今の社会ではこうしたことを実現するには阻害要因が多すぎる。しかし、その中でも市でできることもある。その一つが市教育委員会制度である。まずは、今いる教育委員の改選時に、少なくとも過半数は公選で任命することを望みたい。それも難しいのであれば、5カ年計画みたいなものを作り、最初は一人から始めるという案もある。教育委員会制度の生みの親であるアメリカ合衆国では、とても小さな町や村でも、誰もが立候補できるよう、ユーチューブみたいな媒体を使って公選制度を立派に運営している。佐倉市は歴史と文化のある自治体であると主張しているのだから、公選で選んでも問題はないはずである。そして最終的には全員を公選で選んでもらいたい。これこそが、現わらび市長が公約に掲げた市民に開かれた市政といえる。

次に、学力に関してきちんと説明できる定義または概念を持ってもらいたい。今回「仕訳」で問題とされた所謂「全国学テ」は、テスト主義の立場に立つ者から見ても、全く役に立たない代物で、税金の無駄使いばかりか、参加した子供および教師の時間の無駄でもある。致命的な欠陥は、第1回のテストが行われた子供たちが、どのような学習方法の改善指導を具体的にされ、その効果がどうだったのか全く調査されていないし、発表されてもいない（いわゆるポスト・オーディット）。ただ実施し、その時点での結果比較だけである。当時小6の子どもは中1となり、指導された数学と国語でどれだけ技術力（あえて学力とは言わない）が伸びたのか？（親からみれば貴重な時間と金を使われ、子供にどれくらいの効果があったのかが大事なはず）。こうした無意味な行為に市として参加したことに対し、レビューをきちんとすべきである。同様のその他の試みを市がしているのも議会傍聴で知ったが、その効果もはなはだ疑問である。教育長を中心とした組織がきちんとその効果を発表できるのか？佐倉市に限らないが、多くの自治体は文科省の指示に振り回され、指導要領に振り回され、一番大事な子どもの教育の権利を侵害しているといっても過言ではない。「教育センター」なるものが市にあるということであるが、議会答弁や教育委員会の傍聴で、子供の学力向上にどれくらい貢献しているのか不明な組織である。まさに今回の「仕訳」の基準からすれば、即廃止であろう。

テストに費やす時間を学ぶことに振り向ける必要がある。クローズアップ現代で取り上げられたように、日本語に堪能する基本的な能力（話す、読む、書く）が大人を含めて低下している事実。こうしたことを解決するには、互いに意見を交わしたり、様々な文章を読んで、自分の理解したことを他人に発表したり、書いたりする時間が必要である。教師が子供たちをそうした方向に指導するのもまた時間がかかる。テストをする暇など本当のことを言えないといえる。理科などは、観察を省いたら、まさに中身の無い空箱になってしまう。そのくらい実際には時間がかかる。こうしたプロセスを経ない子供が大学で、理科系に行くかどうかどう実験したらいいかも分からなくなる。

与えられた時間内で教師が子供たちに基礎的な技術力（昔風に言えば読み書きそろばん）を教え、教えた内容の理解度を確かめ、それをベースに更に技術力を高めていくということは、基本中の基本で、そのためには教師が十分な時間を持って子供たちと接することができる環境を用意することが最重要である。その過程の中で子供たちが発す

る疑問（たわいのないものを含め）にどうこたえていくかが子供の成長に大きなインパクトを与える。疑問によっては、社会で活躍している大人に授業参加してもらう必要があるかもしれない。例えば、中学生が、数学は社会に出て役立つのかと質問した時に、教師は答えられないであろう。なぜなら教師自身は教師以外の社会で働いていないから。こうした時には現役（退職でも可）の社会人が実際の仕事の中での話をしてあげることがよいかもしれない。

どの子供も特定の親の子であると同時に、社会の後継者でもある。皆で大事に育てていく必要がある。

以上よろしくご検討ください。

受付番号	15
提出提言 部門区分	産業(観光推興) 文化(文化振興) 市民(市民意識)
提言概要	<p>①佐倉の個性を出し、周辺市との差別化を図る。</p> <p>②城下町文化を打ち出したまちづくりが必要である。</p> <p>③新旧住民のイメージの乖離を取り除き、市全体での城下町佐倉事業を実施したい。</p> <p>④近隣市との連携により、北総観光圏の形成。</p>
提 言 内 容	
<p>佐倉市を今後、成長もしくは維持していくためには税収が必要であり、そのためには現在の佐倉市の人口を増加、維持させなければならないと思いますが、人口が減少している現在、人々はより東京に近い所に住んでいくことになると思われます。そのような中で、佐倉市としては佐倉の個性を出し、周辺市との差別化を図っていかなければならないと思います。</p> <p>佐倉市の個性は自然や文化など多々ありますが、周辺市との違いを明確に表す個性は城下町とその文化であると思います。現に佐倉城は御三階(天守閣)がないにも関わらず日本100名城に選ばれ、城下町文化を色濃く残す「佐倉の秋まつり」は日本三大祭りである山王日枝神社神幸祭に参加するという業績を残すなど、特に佐倉市外で高い評価をいただき、秋祭りには毎年約20万人の方々々が城下町佐倉を訪れるようになっています。</p> <p>一方、佐倉市内では佐倉市が志津地区、臼井地区の発展に伴って成長してきた過程、佐倉地区住民の排他性により旧住民と新住民との間に城下町に対する意識の乖離があるため、佐倉市内では一地区のことで評価され、市として一つにまとまって城下町、城下町文化を盛り上げていくことができていないように思えます。</p> <p>そこで、秋祭り実行委員会としては、現在、参加している新臼井田や松ヶ丘に加えて、臼井地区、志津地区等の住民の参加を促し佐倉市全体のイベントとして実施していくと同時に、秋祭りという枠を超え、広く佐倉の歴史・文化の魅力を紹介することで、ふるさと佐倉の意識づけ、定住促進、新産業の創出、町並み保存に貢献していきたい。またゆくゆくは佐原、成田などとも連携し、北総観光圏の中で佐倉市を確固たる地位に持っていけるよう活動していきたいと思っていますので、ぜひとも総合計画の中に「城下町としての個性を活かしたまちづくり」を包含することをご検討いただければと思います。</p>	

受付番号	16
提出提言 部門区分	都市(まちづくり) 産業(農業) 環境(住環境、公園、自然・緑) 文化(文化振興) 市民(市民参加、市民意識、行政運営)
提言概要	①市民が主役と位置づけた総合計画を。将来都市像を「全ての市民が佐倉に暮らしてよかったと思える安全・安心なまち」と要望する。 ②市街化調整区域の保全(開発行為の禁止、業者への指導、緑農地保全) ③産業としての農業政策(地産地消支援、販売支援、食育、農業者の政策参加) ④行政主導の第4次総合計画策定事業に対する市民参加が実現されていない。
提 言 内 容	
<p>第4次総合計画の将来都市像は、まちづくりは本来市民が主役と位置づけ、「全ての市民が佐倉に暮らしてよかったと思える安全・安心なまち」として策定することを望みます。</p> <p>安全・安心と考えた時、今まで治安・市民の防犯活動に視点が置かれ、ややすると安全・安心を盾に規制強化につながる懸念がぬぐえません。しかし本来安全・安心とは、都市計画、環境、福祉、健康、教育などすべての政策の根幹に関わることと思います。そのためには「安全で安心なまちづくりの基本は市民との協働による新たな自治の確立、強化とコミュニティの形成である」と考えます。</p> <p>この基本に従って第4次総合計画を策定してください。</p> <p>3つの政策提案をいたします。</p> <p>①都市計画・土地利用について</p> <p>佐倉市は乱開発を抑え計画的なまちづくりを行うために、独自に2002年4月も開発行為を規制する条例を策定したにも関わらず、議会の要望もあつてのことか翌年2003年10月には規制緩和が行われ市街化調整区域のミニ開発が急増し近隣住民の生活環境悪化と貴重な緑が失われています。そのような中今年4月には規制緩和された条例改正が施行され2003年10月以前に戻り、懸念していた市街化調整区域の開発促進に歯止めがかかりました。しかし規制緩和された間の開発による市街化調整区域の面積はかなりの減少になり、佐倉の緑豊かな環境の損失にもつながりました。開発に伴う佐倉市の都市計画課の考えは都市計画法も建築基準法も数値で測る尺度しか考えず、開発地域近隣住民の安全・安心より、数値さえクリアしていれば開発許可せざるを得ないという姿勢をつらぬき業者優位の姿勢を市民として感じました。</p> <p>第3次総合計画で土地利用の基本方針として市街化調整区域の土地利用について「環境に十分配慮しながら秩序ある土地利用を図る」等と掲げていますが、条例の規制緩和によって業者の意のままにされ、佐倉市の貴重な資源である豊かな自然環境が失われた事は最も上位に位置づけする総合計画でも無理だったのかと残念でなりません。</p> <p>都市マスタープランの見直しの中で今後の土地利用については、新市街地整備から今後は既成市街地の再編整備への取り組みが中心と書かれていますが、少子高齢化社会の中では当然の見直しと思います。</p> <p>このようなことから、</p> <p>●第4次総合計画では条例で規制緩和することなく、市街化区域内農地および市街化調整区域の土地に関しては土地利用ではなく土地の保全に力を入れる施策を提案いたします。</p>	

●農家世帯の農業継続による土地保全ができない場合、緑農地という位置付けに沿って土地が保全されるよう土地の利用を考えていく組織を地域住民（農業者・非農業者）による組織を作り、その組織が、農家が農業をできなくなった時や農地の継承に困難が生じた時などには、その維持管理の在り方を検討し保全する組織作りの施策を提案します。

●規制緩和によって開発許可された区域と既存住宅地との接続道路は業者に丸投げする事なく開発許可を出した行政の責任として業者への指導を含め取り組むよう提案いたします。

●（仮）佐倉西部自然公園としての予定地、下志津・畔田地先は市街化調整区域であるため都市計画法に基づく自然公園は白紙にし、佐倉市谷津環境保全指針に基づいて市街化調整区域として残すための保全を進める施策を提案します。
CO2 吸収源として、また生物多様性保全上、重要な役割を担う森林、里山谷津田について保全整備を進めるために市街化調整区域は佐倉の貴重な財産です。市民意識調査でも佐倉市のいいところや、どんな佐倉市にしたいかでも自然環境を上位にあげています。市街化調整区域は公園であろうと開発すべきではないと思います。

②地産地消、環境保全、防災にも役立つ農地を保全し、農業を介した豊かな地域おこしについて

高齢化や過疎化に加え、国際競争、気候変動等で農業を取り巻く環境は厳しさが増えています。佐倉市も例外ではありません。第4次総合計画の中で産業としての農業政策にしっかり取り組んでください。

食の安全、生態系への配慮から市民は有機農産物に対して非常に高い関心を持っています。嬉しいことに佐倉市には有機農業に長年取り組み今年も有機農業部門で農林水産大臣賞を受賞された坂戸在住の林 重孝さんがいます。多くの研修生も受け入れています。既存農家の方が有機農業への切り替えは難しいかもしれませんが、新規就農者が有機農業に取り組むことはできると思います。林さんの所で学んだ研修生が地方にいかず、佐倉で新規就農できれば農業を介して豊かな地域おこしに繋がるのではないのでしょうか。

このようなことから、

●弥富地区を有機農業推進地域とし有機農業の推進並びに有機農産物生産者への支援等の施策を提案します。

●農業の収益性の低さなど課題とし販売力の向上に向けて、販売力の活性化策の一例として農産物直売場の整備促進並びに直売場は消費者が要求するあらゆる農産物をそろえるのではなく佐倉市の旬の野菜や佐倉市で取れた野菜を扱っている等の情報を市民に提供する施策を提案します。

●佐倉市には農産物生産に励む一方、日々学習し食育活動等に取り組む活発な女性農業者がいます。生産から加工まで幅広く農業を捉えるために、女性農業者を農業政策に参画できる施策を提案いたします。

③市民参加について

蕨市長は市長就任の際、豊かで住みやすい地域社会を作るため、市民とともにつくるまちづくりを推進してまいりますと挨拶された。このことを受け私は佐倉市の第4次総合計画は時間をじっくりかけ、大勢の市民が参加する中、佐倉市の将来像を描き、市政運営の方向や目標をこれまでの行政評価の下、市民、職員と一緒に議論していくものと期待しましたが現在期待外れとなっています。10年前の第3次総合計画の策定時と何ら変わりなく、市民参加で行ってほしいといった当時の要望も勿論生かされておられません。

現在の社会は少子高齢化が進み、経済情勢も日一日と厳しい状態になる中、多様な市民ニーズに対応する事も求められます。このようなときこそ市民が知恵を出し合い、職員と佐倉市のこれからのまちづくりを話し合うことこそこれからのまちづくりの道筋が

見える事と思っておりましたが・・・・・・・・・・。

市民参加、市民協働と掛け声は立派ですが、どれだけこの言葉を市長始め職員は理解しているのでしょうか？大変疑問に思います。7月8月と2回行われたまちづくり懇談会も会場では職員よりもファシリテータの千葉銀総研が頑張りそして市民から出された意見は千葉銀総研がまとめたことから佐倉市の総合計画に対する意識が問われます。参加者は熱心に勧められるまま意見を出していましたが、最後に出来上がった「佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案」冊子はまちづくり懇談会の意見として位置づけになると思いますが議論が足りない、時間が足りない中での形式だけにとらわれたまとめであると思います。

市民参加とは様々な計画や条例をつくる時にゼロの段階から市民が入り行政の壁にぶつかりながらも地域を住みやすいまちに、よくしようとアイデアを出し、様々な試みを楽しみながら経験することではないでしょうか。またただ市民が意見を出すだけの一方通行ではなく、市民と行政が意見を出し合い議論をする双方向にする取り組みも必要と思います。

今からでも計画策定に市民参加できるように取り組むことを求めます。また第4次総合計画についての意見は要約することなく、総合計画策定本部のメンバー及び総合計画審議会全員にも見ていただくことを要望いたします。

受付番号	17
提出提言 部門区分	医療・福祉（障がい者福祉）、教育（学校教育）
提言概要	<p>①就学に関して、障がいのある生徒とない生徒を分けないことを原則とすべき。</p> <p>②障がいのある人が働く場を作っていくべき。</p> <p>③障がいのある人とない人が教育の場も、働く場も、暮らしの場も分けない施策を進めて、ユニバーサルデザインのまちを作っていく。</p>
提 言 内 容	
<p>「ユニバーサルデザイン」を目指したまちづくりをしていただきたいと思います。</p> <p>その基盤として障がい者施策について求めること。</p> <p>障がいのある生徒の就学に関しては障がいのない生徒と同じ扱いとし、分けないことを原則とすべきです。地域の普通学級に在籍する障がいのある生徒に関しては、障がいのない生徒と共に遊び学び育ち合うことができるよう、支援の充実を図ってください。障がいのある子が居やすい場所が、障がいのない子にとっても安心していられる場所だと思います。その中で障がいのある子とない子がお互いに豊かに育ち合うことができ、そのことが「ユニバーサルデザイン」の社会をつくることに不可欠だと考えます。</p> <p>卒業後は地域で働く施策が必要です。ワークシェアリングの考え方を積極的に進める等して障がいのある人が働く場を作ってください。障がいのある人が働いている姿が街の中でたくさん見受けられるような佐倉市を願います。</p> <p>そして地域で暮らすための施策としてグループホーム、ケアホーム、一人暮らし、シェア居住と、様々なその人にあった暮らしをするための当事者主体の個別の支援の在り方を求めます。</p> <p>障がいのある人とない人が教育の場も、働く場も、暮らしの場も、分けない施策を押し進めることで誰にとっても住みやすい安心安全の豊かな地域社会すなわち「ユニバーサルデザイン」のまちを作っていくことができると思います。</p>	

受付番号	18
提出提言 部門区分	教育・歴史（図書館）
提言概要	①図書館で戦争のことを積極的に伝えていくべき。
提 言 内 容	
<p>図書館について一言したいと思います。</p> <p>今月は12月8日昭和16年大東亜戦争が始まり、当時私は中学1年生、兄は2人出征し、私が母と兄嫁を見て、昭和20年5月24日～25日に新宿に大空襲で丸焼け。この戦争で300万人の兵隊、民間人が無くなり、私の兄も1人戦死しました。</p> <p>日本人は12月8日開戦、8月15日終戦、8月原爆、この3事件は忘れることなく子どもたちに伝えたいと思う。</p> <p>図書館の中にこの3事件の日をアピールして事件に関する本を読ませるよう願います。</p>	

受付番号	19
提出提言 部門区分	都市(まちなみ景観)、市民協働
提言概要	①市道の脇に花を植えていく。 ②作業や管理はボランティアや小学生などの力を借りるように働きかける。
提 言 内 容	
<p>市内の各自治組織に頼ることになるが、当初はボランティアのまとまりでスタートする。</p> <p>市道脇に花を植えていく。種子まき又は苗を植えつけ、ボランティアの力を借りて育てていく。小学生の助力を得ても良い。</p> <p>ポイントはボランティアの働きかけと動員力。</p>	

受付番号	20
提出提言 部門区分	都市（景観）、環境（ゴミ）、産業（雇用）、教育・文化（女性、文化）
提言概要	①街が汚いので、もっときれいにすべき。 ②女性、母親が働きやすい環境を整備すべき。 ③小学生が外国の文化を体験するなど、文化振興。
提 言 内 容	
<p>環境、労働、文化の三点について述べたい。</p> <p>原宿ほどではないが、それでも町は汚いと思う。空を見上げると木の枝にビニール袋がぶら下がり、地面を見ると空き缶・空き瓶がころがり、歩道橋の隅にはビニール袋に入った何かが置かれているなど、町全体がゴミ箱の中であるかのようなようである。観光産業に力を入れるのであれば、さっぱりと洗練された町にしていくことが必要となってくるはずである。</p> <p>次に、少子高齢化によって将来の労働力人口が減ることが懸念されている。特に潜在的な労働力として注目されているのが休職するも条件が合わず仕事に就けない女性の存在である。少子高齢化で生活水準を現在と同程度に保つにはこうした女性からの協力を得ることが急務となる。女性の家庭の事情に柔軟に対応しまた児童託児所を設置するなど、働く母親を思いやる事業を導入した企業・事業所への優遇措置をとる。将来の労働力不足による社会の変化に対応できる社会の環境と仕組みを今から整備していくべきである。</p> <p>佐倉市と言えば「歴史・自然」と言うが、これらに「文化」を加えたい。例として、小学生をドイツに行かせ、ベルリン・フィルの演奏を生で聞かす。本物の芸術に触れた子どもは本物のものを作り出し、文化は活性化し、佐倉市の文化を鑑賞するための観光客もさらに増えることになる。</p> <p>以上、環境、労働、文化に関して提言した。お役に立てれば幸いである。</p>	

受付番号	21
提出提言 部門区分	行財政
提言概要	①人口減少社会に合わせて、最低限の施策を行う計画を立てるべき。 ②国の基準や指針でなく、地方主体で、自分の頭で考えて、市役所職員のマニュアルではない、市民生活に役立つ計画にすべき。 ③補助金はゼロベースで見直していくべき。
提 言 内 容	
<p style="text-align: center;">佐倉市の第4次総合計画のために</p> <p>佐倉市の総合計画の作成に当たって、参考になるいくつかの情報を提供したい。</p> <p>1) 佐倉市の人口</p> <p>第3次計画当初では平成22年での人口推計を22万人と置いていたが、後期計画の作成時に17万4千人と、現状維持に推計を変更している。計画時の推計は合成出生率に基づくものといわれているが、多分、計画作成時の平成8年ごろはまだまだ人口は伸びており、延長して、それを少し丸めた数字を作っただけであろう。しかし、実際の伸長は、予想と違い、全然伸びを見せなかった。そこで、仕方なく、伸びのない数字に変えたのであろう。</p> <p>一体、将来予測をするには、まず現状維持、ついで現在の傾向を伸ばしていくことから始める。もう少しひねると、現状の構造を把握し、その構造が、どういう形で維持されるかを予想して予測する。</p> <p>データは、市が発表している人口統計である。全体の流れを見ると、それまで伸びていた人口は、平成11年ごろから伸びを止め、安定するようになった。</p> <p>それを、人口増の統計で見ると、出生は安定しているが、死亡はここへ来て漸増している。今後もこの傾向は続くというより、高齢者の増加により、死亡はもっと増えていこう。一方、社会増減は大きく変わってきている。まず、それまで大きかった社会増が急減し、社会減は変わらない。社会増は一言で言えば新住宅の建設の関数だろうが、その勢いが弱まっている。さて社会減には何か法則があるのだろうか。</p> <p>それを見るため、年齢別人口統計を利用する。手元に平成11年から21年3月末の数字がある。これを平成11年の年齢に合わせ、その年齢の人口がその後どう変わっていくかを見る。</p> <p>まず高齢者の減少、これは大半死亡と推定される。30代、40代が増えているのは、転入による社会増だろう。</p> <p>特徴的なのは、20代の人口減である。これが社会減の本体であろう。つまり、佐倉市は典型的な過疎化現象を起こしているということである。</p> <p>2) 人口変動構造を受けて</p> <p>佐倉市の将来を考えると、この人口変動構造を前提にすべきであろう。それが変わらないとすれば、現状のギリ貧状態に変化はなく、それに合わせた計画を立てるべきであろう。つまり、積極的な手を打たず、最低限の施策を行う。早い話、総合計画などを作るのは、金の無駄遣いである。</p> <p>公共事業も即刻やめるべきだろう。もしやることがあるとすれば、道路事業である。それも、今注力しているような自動車中心ではなく、歩行者中心の道路計画に即刻切り替えるべきである。</p>	

これは、市民アンケートでも明らかな市民の要求であり、佐倉市の道路調査においても第1の要求になっている。しかし、実際は自動車道路中心になっている。歩行者中心に切り替えられないのは、既存の道路をいじるのが難しいからのようだ。簡単である。自動車の方が少し不便を我慢してもらえれば、歩道を拡張することなど、何の難しいこともない。最悪の場合、一方通行に踏み切れればいい。要は頭の切り替えである。今までは、国の方針で行ってきた事業もこれから地方主体で行えるはずだから（いや、行うべきである。その為には、自分の頭で考え、市民の要求を反映させるようにすべきであろう）、やればできることである。

将来の子どものことを考えると、学校の耐震強度強化も必要かもしれない。しかし、少し考えてもらいたい。どこまで強化すればいいのか。果たして自然は人間の思惑の中で動いてくれるだろうか。まして、これから起こるはずの関東地震は圧倒的な規模のもののである。果たして、阪神大震災規模に耐えられるようにただで済んで大丈夫だろうか。ここでも、発想の転換が必要ではないか。ある程度の地震までは耐えられるようにする。それ以上の地震に対しては、仮に壊れても、児童に被害が少ないことを考える方が実際的である。極端な議論すると、コンクリートの塊が落ちてきたら、助かる可能性が低いだろう。もしアルミを使ったらどうなるか。ガラスが壊れたら怪我をする可能性は高い。これをアクリルガラスに変える。破片が飛び散る可能性は低くなる。木造建築のほうがいいかもしれない。本当に児童の安全を考えるなら、国の基準や指針でなく、自分たちの頭で考えて、手を打つべきであろう。

佐倉市総合計画に戻ろう。一体何のために作っているのだろうか。はっきりしている。法律で決められているからである。いや、それだけじゃない。佐倉市行政活動成果測定という作業を佐倉市は行っている。見てみると、市役所の仕事を総合計画の項目に結びつけ、それぞれの仕事の評価をしている。つまり、総合計画は佐倉市をどうしようというものではなく、市役所職員の仕事のマニュアルであるらしい。いやしくも計画なら創造的な仕事について立てるものであろう。

佐倉市行政活動成果測定の中身を見てみる。

高齢者カードの発行という作業がある。50人に発行し、前年度より増えたということで成果が上がったとしている（この項目に特別ケチをつけようという事ではない。たまたま目に付いたので取り上げるだけのことで、役所の日常業務として、こういうことが必要だということについて異論があるわけではない）。

果たして、こういう定常業務を、目標付けにし、成果を評価する必要があるのか。もし、総合計画に書くなら、定常業務は市民への良きサービスになるよう迅速に処理しますの1行でいいのではないか。例えば、私に高額医療費の還付の知らせが来た。

その葉書と健康保険証などを持って市役所に来いという。ただ、受け取りの窓口である銀行口座を連絡するためなのになぜ市役所まで行かなければならないのか。出張所で十分。往復はがきにして、振り込み先を書いて返すだけではないのか。本当に手術をしたのかどうか確かめたいのだろうか。それにしてもどこにも本人に来いとは書いていない。およそ無駄である。こういうことをあらためてもらいたいものだ。

大体日常業務を一つずつ精査するとは、無駄なことではないのか。無駄である。即刻止めるべきである。

真に創造的な仕事についてのみ、精査が必要であるべきだし、日常業務については、ちゃんとやって当たり前、市民からクレームがなかったか、あったとして、そのクレームは根拠のあるものだったのかを、内部で調べればいぐらいのことだ。大量のクレームがあったら、やはり業務の推進、あるいは業務内容に問題があったと言わざるを得ない。

大体、高齢者カードは、何のために発行するのか。もし身分証なら、市民カードで十分だろう。病気の履歴を書き込むなどと言うと、その記録の信憑性、更新をどうするのか。

もし必要なら、履歴より、今かかっている医者情報を書いておいた方がいいのではないか。しかし、その為には、その医者に余分な負担をかけるのだから、それ相応の対応をすべきであろう。いわゆる家庭医的なことになるのだろうが、高齢者、特に独居老人に対して具体的に何らかの手を打っているのだろうか。こういったシステムを作るのか、作らないのか。作らないとすれば、どういう対応をするのか。市役所のしかるべき職員には考えることが一杯あるはずである。そういうことを総合計画には書くべきではないのか。

自分の頭で考えて、市民のために真に何をすべきかをまとめる。それを全部実行できるわけではないから、何らかの基準で優先順位を付ける。それをまとめたものが、計画ではないのか。

そんなことを言ったって、国がと言うのなら、もう国の方を向く必要はないと言わざるを得ない。国だって苦しいのだから、もう余分な補助金を出すわけがない。金の切れ目が縁の切れ目である（もっとも、市の出す報告を見ていて、国からくる金は、まるで市民と関係ない金だと言わんばかりだが、誤解してもらっては困る。国の金も国民が出した税金なのだから。取ってしまえば、こっちのものだという感覚は捨ててもらいたいものだ）。

市役所と言え、その職員計画に疑問がある。まず、計画より多い退職者が出ているのに、それを計画に反映させないのか。計画で上げた退職者以上の分は新規補充するという姑息なことをしているのではないのか。まず、計画時点で、団塊の世代の定年退職が増えるのだから、過去より退職者数が増えるということは予測できたはず（職員の年齢構成を調べれば簡単にわかることだ）、それを反映させず計画を作ったところに、悪意があると思えない。

佐倉市の職員の定員を、近隣市町村とじかに比較するわけにはいかない。佐倉市の場合、消防やごみなどが別組織になっているからだ。その分割り引く必要がある。さらに、例えば社会福祉協議会に1億円以上の補助を出している。支出を見ると、1億円以上の人件費が計上されている。

支部の運営はボランティアで行われているはずだから、そんな巨額の人件費が必要なのではない。多分本部に専任の人間がいるのだろう。なぜそんな人間を確保しておく必要があるのか。

実際の仕事は、みな現場でしているのだから、現場の代表が集まって相談すればいい。もし必要なら、電話番号を一人ぐらい置いておくだけでいいのではないのか。何もすばらしい新聞を作って、県からほめられたなどということは必要のないことだ。はっきり言って、団塊世代の頃の余剰人員の置場、あるいは天下り先ではないのか。いずれも不要なことである。即刻人件費の補助を大幅に削減すべきであり、こうした隠し人員を持つべきではない（かつて補助金の見直しを佐倉市は行ったはずだが、その際問題にならなかったのか。余計なことだが、補助金はゼロベースで見直すべきである。毎年改めてその必要性を確認すべきである）。

3) もし何かよけいなことをしたいと思うのなら

もし余計なことをしたいと思うのなら、一つは過疎化状況を改善することであろう。何故若者が出ていくのか。簡単である。働く場がないからである（かつての過疎化は、都市部の工場における人手確保という吸引力によるものであったが、今では、地元では働く場がないという脱出力が支配している）。

その前に、かつての工場誘致が結局どんな成果を上げたのか、そんな問題があったのか、はっきりさせるべきである。その上で、新しい計画を立てるのならわかるが、惰性や思いつきでやられては敵わない。

佐倉市に生業を増やすべきである。とって、現実にはかつての工場誘致は、今ではかなり怪しくなっている（大体、工場誘致が佐倉市にとってどんなメリットがあったのか、デメリットははっきりしていることが一つある。地下水の汲み取りを認めたため、

地下水の使用制限につながり、飲みたくもない印旛沼の水を飲まされ、八ッ場ダムへの出資を余儀なくされ。目に見えることとして、佐倉市の税収にどれくらい寄与してきたのか。かけた費用の効率如何。いずれにしろ、こういった過去の事業についての評価を行うべきである。それがないと、新しい事業を起こしても、またわけのわからないものになる)。

まず、ある程度の規模の金が現実に動くところとして、市役所がある。市の支出のどれぐらいが佐倉市の経済に寄与しているのか。これも公表してもらいたいものである。みみっちい話だが、市役所の職員は、佐倉市に在住すべきではないだろうか。400億円の予算なら、約1万人から2万人が生活できるはずである。これが市外に垂れ流されているとしたらもったいない。

そういう言い方をするなら、佐倉市の商業活動もそこに使われる金も市外に流れているのではないか。

もう少し積極的なことと言うなら、農業政策がある。近隣市町村に対して、佐倉市の農業生産高は15億円と圧倒的に群を抜いている。もちろんそれを392人の専業農家がエンジョイしているわけではなく、多数の兼業農家がいるはずである。逆に言えば、兼業農家でもできる農業しかしていないのだ。首都圏という巨大な消費地をひかえているのだから、もっと生産性の高い農業を実施できるはずである。

佐倉で新しい工業は難しいだろうから、情報産業なら、可能性があるのではないか。例えばCATV296を中核にして、本格的な情報ネットを構築し、ネット活用企業を誘致する。なるべくコンテンツ企業を誘致する。そのためのメリットを用意する。

多分市街地にはもうネットの幹線は引いてあるはずだから、その積極的な活用を考える。その手始めに市が率先して、独居老人などの地デジ化対策を行う。

こういうことをするべきだと言っているのではない。やることはあるが、今の市役所の皆さんでやれますかと問うているのである。

キャッチフレーズについても一言。水と緑と歴史の街。なかなかいいフレーズである。もちろんほぼ同じようなフレーズが日本国中で使われていることは承知のうえのことだろう。

さて、水、印旛沼のことについては渡貫前市長がかつて言われたことだが、「印旛沼浄化について佐倉市ができることは、各家庭の下水の整備、浄化槽の設置ぐらいしかない」、これは真実だろう。できもしないことをあれこれいうぐらいなら、これぐらい潔い方がいい。多分市長にはもう一つできることがあるだろう。それは国、県、近隣市町村への働きかけである。一例を挙げる。5、6年前のことで、今では改善されていると思いたいが、八千代市での下水の普及率は80%を超え、佐倉市に匹敵すると言う。で質問した。「印旛沼に流れ込んでいる桑納川流域の普及は」「あそこは市街化調整区域だから下水はありません」

多分市役所の立場としては、佐倉市も同じだろう。言ってることに間違いはないが、これじゃ印旛沼の水はいつまで経ってもきれいになるわけがない。

ここでは、問題点のみを指摘したので、是非これらの点を考慮され、市民、市民生活に役立つ総合計画を作っていただきたい。

私の言いたかったことは伝わっていると思うが、

1. 国が決めたことだから、作るのではない。
2. 市役所のために作るのではない。
3. 現実を徹底的に分析する必要がある。
4. その上で市民の生活に役立つ計画を作る。

以上である。

多分言葉過ぎていることが多いと思うが、勘弁してほしい。

受付番号	22
提出提言 部門区分	医療福祉（健康づくり）
提言概要	飲食店の禁煙と、きちんとした喫煙場所の設置を進めるべき。
提 言 内 容	
<p>＜飲食店の禁煙化ときちんとした喫煙場所の設置で健康を考える市に＞</p> <p>佐倉市に20年近く住んで、健康増進法のおかげで公共施設等の禁煙化は進んできましたが、建物近くのすぐ外に、ただ灰皿を置いただけの喫煙コーナーや飲食店の意味をなさない分煙、喫煙OKのお店のなんと多いことか。市がおんどをとって店内禁煙の義務付け、店に入る前にきちんと禁煙とわかる市内で統一された看板の設置等、是非検討してほしい。そのための協力をしたいと思っています。</p>	

受付番号	23
提出提言 部門区分	産業（観光、名産品）
提言概要	<p>①西から東へと時が移り変わっていくような街を、もっとアピールできたらよい。</p> <p>②西からは電気バスで旧佐倉に向かい、旧佐倉からは籠や人力車で未来都市へと向かうような観光コースがあったらよい。</p> <p>③大和芋や米粉、味噌などを使ったレシピを高校生などに考案してもらったらよい気がする。</p>
提 言 内 容	
<p>横浜から佐倉に越してきて十数年になります。当時、佐倉ってどこ？地の果てにでも越すような気持ちでおりましたが、実際にきて、びっくりでした。</p> <p>京成線からまず目に飛び込んだのは、立ち並ぶ高層マンションに、街中を走るモノレール、まるでそれは未来都市、東へ行くほどに、旧佐倉・城下町佐倉の味のある街へと移り変わっていき、南へ下れば、果てなく広がる田園に昔ながらの懐かしい日々を思い出させてくれて、北には、広大な印旛沼が自然の恵みに貢献し・・・と一つの街にぎっしりと楽しみが詰まり、びっくり箱ならぬ、びっくり街だと感じたことを、今、思い出します。</p> <p>あれから、だいぶ、新興住宅地ができて、様変わりしてしまったところもありますが、まだまだ、西から東へと街の時が移り変わっていく姿はそのままのような気がします。西では電気バスが走り始めてますます未来へ近づいているような。</p> <p>この街全体が歴博・現代版の実写版であるような気がします。縄文から現代へと誘ってくれる歴博のあのワクワク感が佐倉でもっとアピールできればおもしろいかなと思います。</p> <p>西からは、エコバスで旧佐倉へと向かい、旧佐倉からは、お籠とか人力車で未来都市へと向かう・・・そんな観光コースがあったらな、なんて勝手に思っています。</p> <p>それから、つい先日、NHKの番組で、地元の産物を使った自慢のレシピの高校生大会が開かれていました。高校生の感性がとても新鮮でした。佐倉でも大和芋とか米粉とか味噌とか行政が力を入れているようですが、若い子を競わせてレシピを考案させれば何だか妙な驚きのものができあがるように気がします。</p> <p>ここに住まわせていただき、感謝の意味を込めて、つらつらと書いてみました。</p>	

受付番号	24
提出提言 部門区分	教育(学校教育)、市民協働
提言概要	①グローバルな環境で、自ら学び、考え、コミュニケーションできる力を育成する教育が必要。 ②そのような教育を推進する上で、大学やNPOなどの地元のリソースを活用することが鍵になる。
提 言 内 容	
<p>提言：佐倉独自の特色ある教育の推進</p> <p>国の定める基本的なカリキュラム(=Foundation)の上に、佐倉ならではの特色(=Spice)を付け加えるのはいかかでしょうか？佐倉はこれまでも、外のものを取捨選択して取り入れ、人に投資し、地元根付かせ、地元の付加価値としていくことを施策としてやってきたと思います。佐倉藩の時代の蘭学導入をはじめ、学校での食育教育などが、その好例だと思います。</p> <p>これからの時代、多国籍・多文化・多言語といったグローバルな環境の中で、佐倉をはじめ日本はサバイバルしていかなければなりません。そこで必要なのは、このようなグローバルな環境の中で、自ら学び、考え、コミュニケーションできる力を育成する教育だと思います。このような力は、将来、収入を稼ぐ仕事を遂行する上で、地域を豊かにする公德心を育む上で、また病気を予防し健康を増進する上で、不可欠です。このような教育は、世間一般で言われる国際教育、若しくはLife skills-based educationという名前になるかもしれません。</p> <p>このような特色ある教育を推進する上で、地元のリソースをうまく活用することが鍵になると思います。市役所が事務局を担うにせよ、市民が計画立案に参画するのはもちろん、大学やNPOといった地元の外部リソースを使うことが鍵になると思います。手始めにパイロット事業として、計画立案から、教員のトレーニング、教育実施、モニタリング・評価までを小規模で実験してみるのはいかがでしょうか？</p> <p>・・・このような教育を実践している自治体は限られていると思います。きちんとできれば、佐倉の公教育の付加価値、学童の将来への投資になると思います。ご一考下さい。</p>	

受付番号	25
提出提言 部門区分	子育て支援
提言概要	①子育て世帯に住宅費の支援をして欲しい。
提 言 内 容	
<p>私は、主人と1歳1か月の娘と特定優良賃貸物件に住んでいます。毎年10月に3.5%賃料が上がる仕組みになっています。しかし、千葉市では、小さな子どもがいる家庭では賃料は上がりません。</p> <p>ぜひ、子育てに力をいれている佐倉市でもやってほしいです。お願いします。</p>	